

令和 6 年度(令和 5 年度実施事業分)

山武市教育委員会事務の点検・評価に関する報告書

令和 6 年 9 月

山武市教育委員会

目次

第1章	点検・評価の目的と進め方	1
第2章	教育委員会の活動	
1	教育長及び教育委員（令和5年度末現在）	2
2	教育委員会会議の概要	2
3	教育委員の活動	3
第3章	点検・評価の内容	
1	山武市教育振興基本計画の概要	4
2	施策01 学校教育の充実	6
	施策02 生涯学習の推進	24
	施策03 スポーツの振興	41
	施策04 子育ての支援	49
第4章	学識経験者の意見	57

第1章

点検・評価の目的と進め方

目的

山武市教育委員会では、効率的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすことを目的として、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況」について点検・評価を実施し、報告書を取りまとめました。

点検・評価の対象

点検・評価の対象は、令和5年度の教育委員の活動並びに山武市教育振興基本計画の施策及び基本事業としました。

報告書の構成

本報告書の構成は、第2章では教育委員会会議や教育委員会の活動の概要をまとめました。

第3章では、山武市教育振興基本計画の施策及び基本事業の点検・評価の内容をまとめました。

第4章では、教育委員会の活動及び事業の実施状況について学識経験者から評価していただいた内容をまとめました。

点検・評価の進め方

「行政経営サイクル（PDCA サイクル）」の考えを取り入れ、山武市教育振興基本計画の施策及び基本事業を実施しました。

P=Plan（計画）、D=Do（実施）、C=Check（評価）、A=Act（改善）



第2章

教育委員会の活動

1. 教育長及び教育委員（令和5年度末現在）

内田 淳一 教育長
木島 弘喜 委員【教育長職務代理者】
北田 昭雄 委員
鈴木 智子 委員
相葉 英樹 委員
伊藤 範子 委員

2. 教育委員会会議等の概要

○令和5年度山武市小・中学校「いじめ・体罰に関する調査」（2学期）結果及び分析について

令和6年1月18日（木） 令和6年山武市教育委員会会議

子ども教育課から、令和5年度山武市小・中学校「いじめ・体罰に関する調査」（2学期）結果及び分析の概要について報告。

認知件数は、515件（小学校460件、中学校55件）で、前年度の同時期と比較して増加傾向である。このうち、452件（小学校399件、中学校53件）は一定の解消が図られている。

学年別の認知件数では、小学3年生の件数が多くなっているが、前年度の小学2年生のときからいじめの件数が多い学年であったので、丁寧な指導を継続している。

認知のきっかけについては1学期と同じくアンケートが最も多く、次いで本人からの相談となっている。本人及び友人からの発信は、全体の73%になり、これは児童生徒自身にいじめの傍観者にならず、いじめを許さないという意識が育ってきていることや、相談機会が確保され相談環境・相談体制の充実が図られてきているためと考えられる。

いじめの態様の種別は、「冷やかす・からかい・悪口・脅し文句を言われる。」が1学期から継続していることがわかったので丁寧な指導を継続していく。

児童生徒への対応は、スクールカウンセラーや心の教育相談員が対応する案件が1学期より増加していることが2学期の特徴である。スクールカウンセラーや心の教室相談員を含め、組織で対応ができるような校内体制を構築する必要がある。また、ケースによっては関係機関と連携を図り問題解決に取り組めるよう各学校に指導をしていく。

委員からは、「いじめた側、いじめられた側両者のケアを行っていただきたい。」「SNSやインターネットでのいじめについて、GIGA端末を使って集団でいじめをするといった報道があった。市内の学校でそういうことが起きないように各学校に指導をお願いしたい。」等の意見をいただいた。

子ども教育課から、子どもの変化を大人が見逃さずに、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を図りたいとの考えを示した。

○学校におけるＩＣＴ環境の整備・運用について

令和６年２月８日（木） 令和５年度第１回総合教育会議

令和５年度第１回総合教育会議では、「学校におけるＩＣＴ環境の整備・運用について」を議題として、教育委員会部局と市長部局が協議を行った。初めに、教育委員会部局から、ＧＩＧＡスクール構想への取組について説明。

市内小中学校への電子黒板の整備状況について説明し、先行して電子黒板を導入した学校で成果が出ていること、山武市総合計画の事業を推進するため、また、電子黒板が整備されている学校とそうでない学校の不均衡を是正すること等を理由に電子黒板の設置を拡充していきたいとの考えを示した。

委員からは、「電子黒板の整備状況の不均衡を改善するためにも市長部局からは予算面の支援をいただきたい。」「ＩＣＴの活用が教員の働き方改革につながっている。」「ＩＣＴ機器のようなツールが広まったことで児童生徒の顔を見て話す機会が少なくならないようにしていただきたい。」「授業の質が教員によってばらつきが出ないようにしていただきたい。」等の意見をいただいた。

市長部局から、ＩＣＴ環境の整備・運用に向けて、教育委員会部局と協議を進めながら事業を実施するため、活用を見込める補助金の説明があった。

内田教育長は、電子黒板の整備を広げていくことで、児童生徒の個別最適な学びと、協働的な学びとの一体的な充実を図り、アクティブラーニングに繋げていきたいとの考えを示した。

松下市長からは、市内小中学校の子どもたちには同じ学校環境で学んでほしいとの思いがあることから、令和６年度から電子黒板の導入を進めていきたいと考えが示された。

３．教育委員の活動

活動の概要

令和５年度は、教育委員会会議を１２回開催し、議案を５７件審議しました。

また、研修会、学校訪問、総合教育会議等の活動を行いました。

活動	回数
教育委員会会議	12
研修会	5
学校訪問	2
総合教育会議	1

第3章

点検・評価の内容

山武市教育振興基本計画の4つの施策及び17の基本事業の点検・評価を行い、その結果を施策ごとにまとめました。

1 山武市教育振興基本計画の概要

(1) 教育理念

学びの感動と、人を思いやる心を育み 未来をたくましく切り拓く自立した人づくり

(2) 教育理念を推進する5つの基本方針

- ① 幼少期から少年期までの切れ目ない一貫した人づくり
- ② 未来をたくましく切り拓く自立した人づくり
- ③ 郷土愛を育み、地域を支える人づくり
- ④ 情報化・グローバル社会で活躍できる人づくり
- ⑤ 芸術・文化・スポーツ活動を通じた心身共に豊かな人づくり

(3) 施策及び基本事業

施策名		基本事業名	
1	学校教育の充実	1	「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進
		2	「健やかな体」の育成
		3	「豊かな心」を育む
		4	ICT教育の実践
		5	教育環境の整備
		6	地域と学校の協力体制の推進
2	生涯学習の推進	1	主体的な学習の推進
		2	生涯学習施設の利用促進
		3	文化財の保護・活用
		4	芸術文化活動の充実
		5	青少年の育成
3	スポーツの振興	1	スポーツ活動の充実
		2	体育関係団体・指導者の育成
		3	体育施設の利用促進
4	子育ての支援	1	幼保機能の充実
		2	こどもの人権の尊重
		3	学童保育の充実

2 表の見方（施策及び基本事業）

施策番号 01：学校教育の充実

施策の環境変化と課題（令和05年度）
・児童・生徒数は今後も減少が見込まれます。「山武市立小中学校の規模の適正化・適正配置基本計画」に基づき、小学校の複式学級及び中学校の単学級の解消を図ります。 ・近年の教育課題として、経済格差から子どもの学ぶ意欲や学力の低下、規範意識や倫理観の欠如等、社会を構成する一員としての責任の自覚や正義感の乏しさ等が懸念されています。 ・確かな学力の向上を図るため、個に応じた少人数指導の充実による指導方法の工夫改善に取り組みます。 ・児童・生徒一人ひとりのニーズに対応するために、支援員の配置等の人的支援を含めた具体的な対応策を講じます。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業においてICT 機器の有効活用に取り組みます。 ・社会全体で子どもたちを守り育むため、学校・家庭・地域が協働できる体制づくりを推進します。
施策のめざす姿を実現するに当たっての課題や方向性を示しています。

施策の対象	施策の意図
・児童 ・生徒 対象：誰を（何を）	施策・基本事業のめざす姿を記載しています。

施策の成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値 R08	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
学校生活に満足している児童の割合	92 %	93.9 %	91.5 %	95 %	低下	低下	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
<状況> 学校生活に満足している児童の割合は91.5%で、基準値と比較して0.5ポイント減少しました。							
<原因> アンケート結果を分析すると、新型コロナウイルス感染症の影響で控えていた行事を早く元に戻した学校ほど満足度が高く出ているため、すべての行事が元通りになっていないことなどが低下している要因と考えられます。							

施策・基本事業のめざす姿の達成度（成果）を示す指標です。

施策・基本事業の成果指標ごとに評価内容を記載しています。評価結果に基づき、次年度以降の施策、事業の方向性を検討するための判断材料として活用します。

基準値・・・令和3年度における現状値です。

令和04年度・・・令和4年度の実績値です。

令和05年度・・・令和5年度の実績値です。

めざそう値 R08・・・令和8年度までに達成を目指す値です。

※教育振興基本計画の改定に伴い、令和4年度と令和5年度では成果指標が異なる事業があります。このような事業については、令和4年度と令和5年度の実績値の比較が出来ないことから、実績値の欄には（－）を記載しています。

【評価区分】

- （向 上）：成果が順調に推移しているもの
（横ばい）：成果が横ばい又はやや向上しているもの
（横ばい）：成果が横ばい又はやや低下しているもの
（低 下）：成果が低下しているもの
－（比較不可）

【達成状況】

- （向 上）：成果が順調に推移しているもの
（横ばい）：成果が横ばい又はやや向上しているもの
（横ばい）：成果が横ばい又はやや低下しているもの
（低 下）：成果が低下しているもの
－（比較不可）

施策01 学校教育の充実
施策・基本事業の成果指標

施策の成果指標

成果指標名	単位	基準値	R04実績	R05実績	めざそう値 R08	達成状況
学校生活に満足している児童の割合	%	92	93.9	91.5	95	低
学校生活に満足している生徒の割合	%	90.3	95.1	94.9	95	高

基本事業の成果指標

基本 事業	成果指標名	単位	基準値	R04実績	R05実績	めざそう値 R08	達成状況
01	学力の定着が見られる児童の割合	%	62	—	55.9	63	低
01	学力の定着が見られる生徒の割合	%	55.3	—	49.3	56.3	低
01	中学校卒業時に英語検定3級以上を取得している生徒の割合	%	46.4	40.1	41.7	50	低
02	生活習慣の改善に努めた生徒の割合	%	15.9	18	5.6	30	低
02	朝食を毎日食べている児童・生徒の割合	%	81.1	76.1	80.8	85	低
03	不登校児童の割合	%	1.38	1.11	1.84	1.38	低
03	不登校生徒の割合	%	4.32	7.45	7.93	4.32	低
03	道徳性、規律性がある児童・生徒の割合	%	92.3	92.7	94.3	97	低
04	ICT機器端末(タブレット等)が授業で有効に活用されていると思う児童(高学年)の割合	%	69	—	71	80	低
04	ICT機器端末(タブレット等)が授業で有効に活用されていると思う生徒の割合	%	61.2	—	59.3	72	低
04	授業にICT機器を積極的に活用した教職員の割合	%	64	69.7	74.7	74	達成
05	学校施設の不具合による学校生活支障件数	件	0	—	0	0	達成
05	安全な給食を確実に提供できなかった件数	件	0	—	0	0	達成
05	複式学級(小学校)及び単学級(中学校)の出現数	校	1	0	0	0	達成
06	学校教育活動に協力した市民数	人	153	431	137	153	低
06	学校支援活動に協力した市民数	人	229	—	123	229	低

達成状況の概要

施策	件数	基本事業	件数
達成	0	達成	4
高	1	高	0
中	0	中	0
低	1	低	12
—	0	—	0

施策番号 01：学校教育の充実

施策の環境変化と課題（令和05年度）
・児童・生徒数は今後も減少が見込まれます。「山武市立小中学校の規模の適正化・適正配置基本計画」に基づき、小学校の複式学級及び中学校の単学級の解消を図ります。 ・近年の教育課題として、経済格差から子どもの学ぶ意欲や学力の低下、規範意識や倫理観の欠如等、社会を構成する一員としての責任の自覚や正義感の乏しさ等が懸念されています。 ・確かな学力の向上を図るため、個に応じた少人数指導の充実による指導方法の工夫改善に取り組みます。 ・児童・生徒一人ひとりのニーズに対応するために、支援員の配置等の人的支援を含めた具体的な対応策を講じます。 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業においてICT 機器の有効活用に取り組みます。 ・社会全体で子どもたちを守り育むため、学校・家庭・地域が協働できる体制づくりを推進します。

施策の対象	施策の意図
・児童 ・生徒	・学校生活に満足している児童生徒が増加します。

施策の成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
学校生活に満足している児童 の割合	92 %	93.9 %	91.5 %	95 %	低下	低下	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
<状況> 学校生活に満足している児童の割合は91.5%で、基準値と比較して0.5ポイント減少しました。 <原因> アンケート結果を分析すると、新型コロナウイルス感染症の影響で控えていた行事を早く元に戻した学校ほど満足度が高く出ているため、すべての行事が元通りになっていないことなどが低下している要因と考えられます。							

施策の成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
学校生活に満足している生徒 の割合	90.3 %	95.1 %	94.9 %	95 %	向上	横ばい （↓）	高
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
<状況> 学校生活に満足している生徒の割合は94.9%で、基準値より4.6ポイント増加しました。 <原因> アンケート結果を分析すると、新型コロナウイルス感染症の影響で控えていた部活動や体育祭、修学旅行等の学校行事がコロナ禍前と同様に実施できたことなどが要因と考えられます。							

施策番号 01：学校教育の充実

基本事業番号 01：「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進

基本事業の対象	基本事業の意図
・児童 ・生徒	・学年相応の学力が定着しています。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
学力の定着が見られる児童の割合	62 %	—	55.9 %	63 %	低下	—	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 学力の定着が見られる児童の割合は55.9%で、基準値と比較して6.1ポイント減少しました。 <原因> 少人数指導体制を整えたり、一人一台端末を活用した学習指導法の工夫をし、個の習熟に応じた指導を試みているものの、活用頻度等、学年に応じて差が出てきていると考えられます。また、国語科における語彙の習得が不十分で問題文を正しく理解出来ていない事も考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
学力の定着が見られる生徒の割合	55.3 %	—	49.3 %	56.3 %	低下	—	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 学力の定着が見られる生徒の割合は49.3%で、基準値と比較して6.0ポイント減少しました。 <原因> 一人一台端末を活用した学習指導法の工夫により、個の習熟に応じた指導を試みているものの、活用頻度等、学年に応じて差があると考えられます。また、国語科においては読解力の低下、数学科は基礎基本の定着が不十分なことも考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
中学校卒業時に英語検定3級以上を取得している生徒の割合	46.4 %	40.1 %	41.7 %	50 %	低下	横ばい (↑)	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 中学校卒業時に英語検定3級以上を取得している生徒の割合は41.7%で、基準値より4.7ポイント減少しました。 <原因> 令和5年度の3年生は、生徒指導上の特別な支援が必要な生徒が多く、3級以上の取得が少なかったことが要因と考えます。							

事業名称	小学校用備品整備事業(振興)					[769]
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 子ども教育課		
基本事業名	01	「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進	計画年度	～		
方向性	01	確かな学力を身に付ける学習指導の推進				
事業概要	【令和5年度大幅増減事業】 各小学校の要望を取りまとめ、児童が適切な授業を受けられるよう備品を整備します。 教科書改訂に伴う指導者用教科書及び教材備品を整備します。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	小学校振興用備品入札、随意契約件数	件	7	6	16	20
活動指標②						
成果指標①	小学校振興用備品購入額	千円	2,924	2,830	2,391	4,254
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円	2,924	2,829	29,186	8,928
活動進捗	順調	<状況>学校要望に沿う備品（振興）の一部について、一括購入したことで、多種にわたる備品を購入でき、教育環境の充実を実現することができました。また、令和4年度と比較し、事業費が26,357千円の増額となりました。 <原因>経年劣化等で部品を交換できない教材備品等を買替えたほか、小学校教科書改訂に伴う教員用「指導書・教科書」を購入したためです。				
成果状況	維持・横ばい					
課題及び今後の取組み		<課題>小学校の備品の老朽化が進んでいて、買い替え対象の備品が増加しています。 <今後の取組み>限られた予算の中で、修繕を行い備品を使用します。また、修繕が困難な備品については、要望備品の優先順位を設定し、計画的に整備します。				

事業名称		学力向上支援事業					[2071]	
施策名		01	学校教育の充実	担当部署	教育部 子ども教育課			
基本事業名		01	「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進	計画年度	令和02年度 ～			
方向性		02	個に応じたきめ細やかな学習指導の推進					
事業概要		確かな学力向上を目指し、主体的に学びあう児童生徒を育成するため、チームティーチングによる少人数指導と若手教員の指導力向上を図る事業です。						
		指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分		指 標 名 称						
活動指標①		支援学校数		校	2	4	4	3
活動指標②								
成果指標①		勉強が好きと回答した児童生徒の割合		%	88.4	77.0	74.8	80
成果指標②								
		事業費（決算及び当初予算）		千円	908	2,075	1,943	1,949
活動進捗		順調		<状況>「勉強（算数）が好き」と回答した児童の割合は、令和4年度と比較し2.2ポイントの減少となりました。 <原因>3年生では算数ができる喜びを感じるということが肯定的な回答につながりますが、4年生ではできる喜びを感じる割合が減少しています。4年生の学習は学年の後半になると難しくなり、「好きではない」と回答する児童が増えてきたことで、苦手意識が出てきたものと思われます。				
成果状況		維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		<課題>事前・事後アンケートの結果から「勉強（算数）が好き」と回答した児童の割合は、小学校4年生で77.5%から68.1%と9.4ポイント減少しました。授業での学習の振り返りを確実に行う、5分以内でできる小テストを実施するなど、これまで学習したことを定着させる工夫が必要です。 <今後の取組み>今後も四則計算の基礎を学ぶ小学校3・4年生を対象として、学力向上推進校を指定し、チームティーチングや少人数指導、個別対応によるきめ細やかな指導等を進めていきます。						

事業名称	外国人英会話授業支援事業					[929]
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 子ども教育課		
基本事業名	01	「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進	計画年度	平成18年度 ～		
方向性	04	国際教育の推進				
事業概要	小中学校の英語の授業や外国語活動で、児童生徒がネイティブスピーカーから直接指導を受けることができるよう外国人講師を派遣する事業です。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	A L Tを配置した学校数	校	16	15	15	15
活動指標②						
成果指標①	児童・生徒が『A L Tの授業・英語活動を楽しみにしている』と回答した教職員の割合	%	86.5	83.9	93.3	80
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円	28,908	28,261	28,908	29,014
活動進捗	順調	＜状況＞市内すべての小中学校にALTが計画的に配置されています。学習意欲が向上している児童生徒数の割合は令和4年度に比べ9.4ポイント増加しました。高い水準を保っており順調です。 ＜原因＞市内小中学校にALTを配置し、児童生徒と授業外の活動でもコミュニケーションを積極的に図っています。また、ALTと教職員との授業前の打合せの時間を確保し、連携がとれた授業展開ができていることが学習意欲の向上につながっていると考えられます。				
成果状況	向上					
課題及び今後の取組み		＜課題＞令和6年度から委託業者が変更となります。ALTと児童生徒及び教職員の良好な人間関係を築くため、授業の進め方や、児童生徒の様子について、共通理解を図っていく必要があります。 ＜今後の取組み＞児童生徒の学習意欲を高められるように、ALTと教職員の授業前の打合わせ時間を確保し、連携の取れた授業を展開できるようにしていきます。				

事業名称		英語教育推進事業					[1903]
施策名	01	学校教育の充実		担当部署	教育部 子ども教育課		
基本事業名	01	「確かな学力」の向上と「活きた学力」の推進		計画年度	平成27年度 ～		
方向性	04	国際教育の推進					
事業概要	グローバル教育推進に向け、中学生を対象に英検受験料の補助を実施する事業です。						
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初	
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	英検を実施した学校数	校	5	4	4	4	
活動指標②							
成果指標①	中学校卒業時の英語検定3級以上取得割合	%	46.4	40.1	41.7	50	
成果指標②							
事業費（決算及び当初予算）		千円	3,709	3,598	3,285	3,588	
活動進捗	順調	＜状況＞中学校3年生の3級以上の取得割合が令和4年度よりも、1.6ポイント増加しています。 ＜原因＞市内中学生に英語検定3回中1回の全額補助を行うこと、英語検定対策講座を夏季・冬季の2回実施することが定着しています。また、一人一台端末を活用し個別に対策に取り組んだことが成果としてあらわれています。令和4年度、2年生終了時に3級以上の取得率が高かったことも影響していると考えられます。					
成果状況	維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		＜課題＞中学校3年生の英語検定3級以上の取得割合が前年度より1.6ポイント増加しましたが、目標の50%には届きませんでした。2年生修了時の3級取得率を高めるために、英語検定対策講座の充実を図る必要があります。 ＜今後の取組み＞中学校全生徒を対象に、英語検定受験料の全額補助事業を継続します。各学校の英検の取組が向上するように、夏季及び冬季に開催する英語検定対策講座の実施方法を工夫し、参加生徒が増加するよう委託業者と連携し取り組みます。					

施策番号 01：学校教育の充実

基本事業番号 02：「健やかな体」の育成

基本事業の対象	基本事業の意図
・児童 ・生徒	・健康な体がつくられます。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
生活習慣の改善に努めた生徒 の割合	15.9 %	18 %	5.6 %	30 %	低下	低下	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 小児生活習慣病健診で要医療・要指導と判定された生徒の内、受診・面談等、生活習慣の改善に努めた生徒の割合は5.6%で、基準値と比較して10.3ポイント減少しました。 <原因> 生徒、保護者ともに、健康な体づくりに対する意識が低いことが原因と考えます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
朝食を毎日食べている児童・ 生徒の割合	81.1 %	76.1 %	80.8 %	85 %	横ばい (↓)	向上	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 朝食を毎日食べている児童・生徒の割合は80.8%で、基準値と比較して0.3ポイント減少しました。 <原因> 毎日朝食を食べる児童・生徒の割合は、小学生84.0%、中学生77.8%です。。中学生の数値が低いのは、中学生になり生活習慣の変化によって朝食の時間を確保できていないことが主な原因と考えます。							

事業名称	児童健康安全事業						[765]
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 子ども教育課			
基本事業名	02	「健やかな体」の育成	計画年度	～			
方向性	02	望ましい生活習慣づくりの推進					
事業概要	児童が心身共に健康で楽しい学校生活を送れるように健康事業に取り組みます。 また、児童の急病・けが等の際にタクシーにより児童を医療機関に移送します。						
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	検査受診人数（尿検査）		人	1,810	1,795	1,736	1,661
活動指標②	健診実施数		種類	4	4	4	4
成果指標①	健診受診率		%	100	100	99	100
成果指標②	再検査および精密検査が必要な児童数		人	74	85	75	35
事業費（決算及び当初予算）			千円	9,824	10,235	10,162	10,773
活動進捗	順調	＜状況＞児童が健康的に学校生活を送ることができました。活動指標の実績は前年度とほぼ変わらず、順調です。 ＜原因＞すべての対象児童の健診を行うことで適切な健康管理ができるためです。					
成果状況	維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		＜課題＞健診受診率は99%で、ほぼすべての児童が学校健診を受診している状況です。すべての児童が学校健診を受診し、健康調査できる環境づくりが必要です。 ＜今後の取組み＞健診を欠席してしまった場合は、別日に他の学校で受診できるようにすることや、特定の健診は次年度に受診対象学年に関係なく受診可とするなど受診の機会を確保して行く必要があります。					

事業名称	生徒健康安全事業					[823]	
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 子ども教育課			
基本事業名	02	「健やかな体」の育成	計画年度	～			
方向性	02	望ましい生活習慣づくりの推進					
事業概要	生徒が心身共に健康で楽しい学校生活を送れるように健康事業に取り組みます。 また、生徒の急病・けが等の際にタクシーにより生徒を医療機関に移送します。						
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	検査受診人数（尿検査）		人	1,057	991	938	1,000
活動指標②	健診実施数		種類	5	5	5	5
成果指標①	健診受診率		%	97	95	94	100
成果指標②	再検査および精密検査が必要な生徒数		人	135	167	114	100
事業費（決算及び当初予算）			千円	6,303	6,031	5,972	6,925
活動進捗	順調	＜状況＞健診受診率が前年度と比べ1ポイント減少しましたが、順調です。 ＜原因＞健診を欠席し、その後受診できなかった生徒がいたことが原因と考えられます。					
成果状況	維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		＜課題＞健診受診率は94%でした。すべての生徒が学校健診を受診し、健康を維持できる環境づくりが必要です。 ＜今後の取組み＞健診を欠席してしまった場合は、別日に他の学校で受診できるようにすることや、特定の健診は次年度に受診対象学年に関係なく受診可とするなど、生徒の受診の機会を確保していく必要があります。					

施策番号 01：学校教育の充実

基本事業番号 03：「豊かな心」を育む

基本事業の対象	基本事業の意図
・児童 ・生徒	・自ら律しつつ、相手を思いやる心を持ち、豊かな人間性と社会性が育まれています。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
不登校児童の割合	1.38%	1.11%	1.84%	1.38%	低下	低下	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 不登校児童の割合は1.84%で、基準値より0.46ポイント増加しました。 <原因> 不登校児童の増加は本市に限らず、国や県でも同様の傾向があります。原因として、令和5年度本市小学校対象の調査では、無気力・不安が37.0%と最も多く、次いで生活リズムの乱れ等が18.5%で続いています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により意識や生活様式が変化したことも、大きく影響していると考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
不登校生徒の割合	4.32%	7.45%	7.93%	4.32%	低下	低下	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 不登校生徒の割合は7.93%で、基準値より3.61ポイント増加しました。 <原因> 不登校生徒の増加は本市に限らず、国や県でも同様の傾向があります。原因として、令和5年度本市中学校対象の調査では、無気力・不安が37.2%と最も多く、次いでいじめを除く友人関係をめぐる問題が25.5%で続いています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により意識や生活様式が変化したことも、大きく影響していると考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
道徳性、規律性がある児童・生徒の割合	92.3%	92.7%	94.3%	97%	横ばい(↑)	向上	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 道徳性、規律性がある児童・生徒の割合は94.3%で、基準値と比較して2.0ポイント増加しました。 <原因> 「人が困っているとき進んで助ける」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」両項目とも昨年度より、割合が高くなっていることが原因と考えられます。							

事業名称		不登校対策推進事業				[930]
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 子ども教育課		
基本事業名	03	「豊かな心」を育む	計画年度	平成18年度 ～		
方向性	04	不登校等の生徒指導上の課題への対応・いじめ防止対策・児童虐待防止対策				
事業概要	【令和4年度事業変更・統合廃止事業】 児童生徒が悩みを気軽に話すことができる第三者的存在として「心の教室相談員」を配置する事業です。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	「心の教室相談員」配置学校数	校	16	15	15	15
活動指標②						
成果指標①	「心の教室相談員」への相談回数	回	6,718	7,486	7,112	5,000
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円	10			
活動進捗	順調	＜状況＞令和5年度の「心の教室相談員」への相談件数は7112回で、前年度と比較して374回減少しているものの、おおむね順調です。 ＜原因＞児童生徒数が約100人減少したこと、新型コロナウイルスの5類移行により、令和4年度より学校行事等が充実して行えるようになったことなどにより、やや相談件数が減ったと考えられます。心の教室相談員は、教員と違った立場で、児童生徒との距離感が近いいため、相談しやすい存在です。今後も、児童生徒を支える存在として果たす役割は大きいと考えます。				
成果状況	維持・横ばい					
課題及び今後の取組み		＜課題＞予防対策として、引き続き心の教室相談員の全校配置など、児童生徒や保護者、教職員がいつでも相談できる校内体制づくりを整えていく必要があります。 ＜今後の取組み＞長期欠席の児童生徒の状況、家庭環境等を把握し、関係機関と連携を図り、改善に努めます。				

事業名称		いじめ防止対策推進事業					[1848]	
施策名		01	学校教育の充実	担当部署	教育部 子ども教育課			
基本事業名		03	「豊かな心」を育む	計画年度	平成27年度 ～			
方向性		04	不登校等の生徒指導上の課題への対応・いじめ防止対策・児童虐待防止対策					
事業概要		いじめ対策推進法に基づき、「いじめ問題対策連絡協議会」、「いじめ問題調査対策委員会」を設置します。併せて、ネットいじめ相談アプリの提供や「SOSの出し方講座」を実施し、相談体制を整備する事業です。						
		指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分		指 標 名 称						
活動指標①		いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題調査対策委員会の開催回数		回	2	2	2	2
活動指標②								
成果指標①		いじめ重大事態の発生件数		件	0	0	0	0
成果指標②								
		事業費（決算及び当初予算）		千円	415	452	428	685
活動進捗		順調	＜状況＞令和4年度と同様に、いじめ問題対策連絡協議会を2回実施し、いじめの状況や対応について専門的な助言をいただきました。令和5年度はいじめ重大事態の発生は0件であり、順調です。 ＜原因＞いじめの認知件数は1148件で昨年度とほぼ横ばいです。軽微なトラブルも逃さずに「早期発見」「組織的な早期対応」「早期解決」につなげており、重大事態への発展を防いでいる結果です。					
成果状況		維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		＜課題＞いじめを許さない環境づくりの徹底のために、いじめ防止、早期発見及び組織的な早期対応を引き続き推進していく必要があります。 ＜今後の取組み＞山武市いじめ相談カード「安心ホッとカード」の配付やいじめ相談アプリの周知、年度当初、長期休業前に相談窓口の周知を図ります。また、いじめ防止啓発授業を市内全学校で実施するとともに、全ての教育活動を通して情報モラルの向上を図ります。						

施策番号 01：学校教育の充実

基本事業番号 04：ICT教育の実践

基本事業の対象	基本事業の意図
・児童 ・生徒 ・教職員	・ICT教育の実践や情報化に取り組むことで、教育の質が向上します。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
ICT機器端末(タブレット等)が授業で有効に活用されていると思う児童(高学年)の割合	69%	—	71.0%	80.0%	横ばい(↑)	—	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度のICT機器端末(タブレット等)が授業で有効に活用されていると思う児童(高学年)の割合は71.0%で、基準値と比較して2.0ポイント増加しました。 <原因> 児童一人ひとりの学習進度に応じたICT機器の活用に取り組んだことが原因と考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
ICT機器端末(タブレット等)が授業で有効に活用されていると思う生徒の割合	61.2%	—	59.3%	72.0%	横ばい(↓)	—	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度のICT機器端末(タブレット等)が授業で有効に活用されていると思う生徒の割合は59.3%で、基準値と比較して1.9ポイント減少しました。 <原因> 中学生全体のICT機器の習熟率が上昇しているため、生徒が授業に求めるICT機器の活用度合が高くなっていることが、相対的に数値が低下した原因であると考えます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
授業にICT機器を積極的に活用した教職員の割合	64%	69.7%	74.7%	74.0%	向上	向上	達成
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の授業にICT機器を積極的に活用した教職員の割合は74.7%で、基準値より10.7ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> ICT機器の活用方法について、ICT支援員等による研修を実施したことが要因と考えられます。							

事業名称		教育情報機器管理事業					[1719]
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 子ども教育課			
基本事業名	04	ICT 教育の実践	計画年度	平成25年度 ～			
方向性	01	教育の情報化への対応					
事業概要		小中学校の情報資産を効率的により安全性の高い環境で管理を行っている山武市教育情報システムの運用を行います。					
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	センターサーバ・各システム等の保守点検の実施回数		回	10	10	10	10
活動指標②							
成果指標①	障害発生件数		回	0	0	0	0
成果指標②							
事業費（決算及び当初予算）			千円	25,393	25,338	25,396	25,297
活動進捗	順調	＜状況＞本年度も障害は発生していません。 ＜原因＞適切に保守管理が実施されています。					
成果状況	維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		＜課題＞現在のシステム運用を開始してから3年が経過し、次期更新を見据える必要があります。 ＜今後の取組み＞システム構成や最新のセキュリティポリシーについて情報収集を行います。					

事業名称	ＩＣＴサポート事業					[1787]	
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 子ども教育課			
基本事業名	04	ICT 教育の実践	計画年度	平成26年度 ～			
方向性	02	教職員等の情報活用能力の向上					
事業概要	G I G Aスクール構想に係る児童生徒 1 人 1 台端末の活用を推進し、児童生徒が分かりやすく、学習意欲が膨らむ授業を展開できるよう、教職員のサポートとなる I C T 支援員を民間委託により配置し、授業支援等を行います。						
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	教員のICT活用を支援する外部人材の派遣回数		回	33	33	30	24
活動指標②							
成果指標①	ICTを活用した授業を実施した教員の割合		%	87	82	86	87
成果指標②							
事業費（決算及び当初予算）			千円	13,649	13,140	13,740	12,000
活動進捗	順調	＜状況＞前年度より機器を活用した教員の割合が増加しました。 ＜原因＞教職員の端末活用が多くなった為です。					
成果状況	維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		＜課題＞GIGA端末及びデジタル教科書の活用が増加し、また端末へのインストール作業も増えICT支援員の支援がより必要とされています。 ＜今後の取組み＞ICT機器の使用方法についてICT支援員を活用することにより、ICTを活用した授業の実施に努めます。					

施策番号 01：学校教育の充実

基本事業番号 05：教育環境の整備

基本事業の対象	基本事業の意図
・ 学校施設 ・ 給食施設	・ 豊かな学校生活を送るための安全・安心な教育環境・施設になっています。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
学校施設の不具合による学校生活支障件数	0件	—	0件	0件	向上	—	達成
担当課：施設整備課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 学校施設の不具合による学校生活支障件数は0件で、基準値を維持し、めざそう値を達成しました。 <原因> 専門家による点検や日常点検等を行ったことにより、危険箇所の把握及び施設の状況把握をすることができ、緊急度に基づき迅速な修繕工事等を行ったことが主な要因と考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
安全な給食を確実に提供できなかった件数	0件	—	0件	0件	向上	—	達成
担当課：学校給食センター							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の安全な給食を確実に提供できなかった件数は0件で、基準値を維持し、めざそう値を達成しました。 <原因> 計画的な修繕や定期点検により施設を良好な状態に維持したこと、成東学校給食センターにおける代替給食の提供については、委託業者と綿密な打合せのもと業務を実施したことが給食の安定供給につながった要因です。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
複式学級（小学校）及び単学級（中学校）の出現数	1校	0校	0校	0校	向上	横ばい	達成
担当課：教育総務課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の複式学級（小学校）及び単学級（中学校）の出現数は0校で、基準値と比較して1校減少し、めざそう値を達成しました。 <原因> 山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画（前期計画）に計画された4件（8校）の学校統合が終了したことが主な要因と考えられます。							

事業名称	小学校施設改修事業					[2011]	
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 施設整備課			
基本事業名	05	教育環境の整備	計画年度	令和01年度 ～			
方向性	01	快適な教育環境への改修・整備					
事業概要	【令和5年度大幅増減事業】 経年による老朽のため、成東小学校受水槽改修工事、南郷小学校東側校舎外壁等改修工事、山武北小学校校舎棟エレベーター改修工事を実施します。また、令和6年度の緑海小学校校舎棟外壁等改修工事の為の設計積算業務も実施します。						
		指標・事業費の推移	単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	修繕及び工事件数		件	1	1	3	1
活動指標②	修繕及び工事費		千円	1,210	31,026	68,795	33,220
成果指標①	児童一人当たりの経費		円	667	17,218	39,446	20,000
成果指標②							
事業費（決算及び当初予算）			千円	1,705	33,394	75,692	36,520
活動進捗	順調	＜状況＞山武北小学校エレベーター改修工事を繰越明許費とし令和5～6年度にて実施、他の改修工事等は計画的に完了しているため、順調です。 ＜原因＞作業人員不足や部品調達に期間を要したため、繰越明許費とし工期を確保しました。					
成果状況	向上						
課題及び今後の取組み		＜課題＞市の財政が厳しい状況の中、各小学校施設等は老朽化が進み、また各学校からの要望に苦慮しています。 ＜今後の取組み＞「山武市学校施設長寿命化計画」に基づき、施設の老朽化の度合により優先順位を設定し、計画的に改修します。また、一般財源に頼らないため、特定財源による予算の確保を図ります。					

事業名称		成東学校給食センター施設管理運営事業					[1026]	
施策名		01	学校教育の充実	担当部署	教育部 学校給食センター			
基本事業名		05	教育環境の整備	計画年度	平成18年度 ～			
方向性		01	快適な教育環境への改修・整備					
事業概要		成東学校給食センター施設の管理及び小学校8校、中学校2校、幼稚園1園（委託）の給食提供を行うとともに、山武市内小・中学校、幼稚園給食に係る給食費の賦課徴収管理を行う事業です。						
		指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称							
活動指標①	給食数（成東センター調理分）		食	395,127	368,609	323,494	360,570	
活動指標②	臨戸徴収件数		件	2,691	49	83	60	
成果指標①	給食を支給できなかった日数		回	0	0	0	0	
成果指標②	市全体の給食費収納率		%	99.61	98.98	98.40	99	
			事業費（決算及び当初予算）	千円	248,837	243,575	240,802	246,618
活動進捗	順調	＜状況＞収納率は98.4%で前年度に対し0.58ポイント低下しました。給食を支給できなかった日数は0日であり順調です。						
成果状況	維持・横ばい	＜原因＞給食費の収納率向上のため、電話催告及び臨戸徴収を行い横ばいを維持しています。給食の安定供給のため、計画的な修繕や定期点検の実施により施設を良好な状態に維持するとともに、プロポーザル選定により適切な業者を選定し工事期間中は代替給食を提供しました。						
課題及び今後の取組み		＜課題＞R5年12月21日をもって成東学校給食センターにおける給食の調理・配送は終了し、成東学校給食センター改築工事期間中は、委託契約による代替給食を提供しており、業務の確実な遂行が求められます。 ＜今後の取組み＞代替給食の実施については、受注者との綿密な連携のもと、関係機関と協議し安心・安全な給食を提供します。						

事業名称		山武学校給食センター施設管理運営事業				[1028]
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 学校給食センター		
基本事業名	05	教育環境の整備	計画年度	平成18年度 ～		
方向性	01	快適な教育環境への改修・整備				
事業概要	山武学校給食センターの施設管理及び、小学校3校・中学校2校に給食提供を行う事業です。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	給食数（山武センター調理分）	食	215,156	214,279	204,791	246,740
活動指標②						
成果指標①	給食を支給できなかった日数	日	0	0	0	0
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円	158,688	167,138	172,003	187,900
活動進捗	順調	＜状況＞全ての小中学校（6校）に給食を中止することなく提供することができ順調です。 ＜原因＞その理由として、厨房機器を定期的に点検することで故障箇所を早期に発見し、迅速な修繕を行っています。また、老朽化した厨房機器や設備は、計画的に修繕を行っていることが考えられます。				
成果状況	維持・横ばい					
課題及び今後の取組み		＜課題＞施設や厨房設備等の不具合が随時発生している状況です。今後、新学校給食センターが完成するまでの間、設備等の故障箇所の早期発見等の未然防止対策が必要です。 ＜今後の取組み＞日常点検や保守点検等により故障箇所を早期に発見し、迅速な修繕を行います。				

事業名称		学校給食センター施設整備事業				[1981]		
施策名		01	学校教育の充実	担当部署	教育部 学校給食センター			
基本事業名		05	教育環境の整備	計画年度	平成30年度 ～ 令和08年度			
方向性		01	快適な教育環境への改修・整備					
事業概要		【令和5年度大幅増減事業】 成東学校給食センター及び山武学校給食センターの2施設を統合し、現在の学校給食衛生基準にあった給食センターを整備する事業です。						
		指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分		指 標 名 称						
活動指標①		受託事業者との打合せ回数		回	10	17	12	12
活動指標②								
成果指標①		進捗率		%	5	15	50	70
成果指標②								
事業費（決算及び当初予算）				千円	5	20,134	114,583	1,945,127
活動進捗	順調	＜状況＞令和5年度に計画した事業（成東センター近隣家屋調査（事前）、駐車場用地購入、物件移転補償、成東センター解体工事）は予定どおり完了し、進捗率は50％で順調です。 ＜原因＞委託業者と、定期的に綿密な進行管理を行ったこと、土地収用法に基づく事業認定の手続が予定どおり進んだことが順調な業務進行につながったためです。						
成果状況	維持・横ばい							
課題及び今後の取組み		＜課題＞成東学校給食センター改築工事の実施にあたり、引き続き近隣住民等への適切な対応が必要となります。 ＜今後の取組み＞工事の実施に当たっては、受注者との情報共有を密にし、法令遵守のうえ、近隣住民等への影響を考慮して進めます。						

事業名称	通学バス運行事業						[1972]
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 教育総務課			
基本事業名	05	教育環境の整備	計画年度	平成30年度 ～			
方向性	04	学校の統廃合					
事業概要	学校統合に伴い遠距離通学となる児童生徒の負担を軽減するため、通学バスを運行するものです。						
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	利用児童生徒数		人	236	314	300	298
活動指標②	運行日数		日	204	267	267	267
成果指標①	運行休止により、通学が不可能となった日数		日	0	0	0	0
成果指標②							
事業費（決算及び当初予算）			千円	47,540	62,635	62,870	64,787
活動進捗	順調	＜状況＞車両の不具合や事故等により、登下校が不可能になった日数は0日であり、順調です。 ＜原因＞学校、委託業者と連携を図りながら安全運行、管理が出来たことによるものと考えます。					
成果状況	維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		＜課題＞学校統合により通学が遠距離になる児童生徒の通学支援として業務委託により通学バスを運行しているが、令和5年8月に国交省から新たなバス運賃が公示され、令和7年度には更なる運賃見直しが予定されており、バス料金の値上げが懸念されます。 ＜今後の取組み＞通学バス利用児童生徒数にあわせた運行体制やルート等の見直しを行うなど、経費や内容について精査し、安心で安全な運行に努めることはもとより、効率よく効果的な運行が図れるよう検討します。					

施策番号 01：学校教育の充実

基本事業番号 06：地域と学校の協力体制の推進

基本事業の対象	基本事業の意図
学校 地域住民 NPO	地域の人材力を活用し、学校と地域の協働で子どもたちを育みます。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
学校教育活動に協力した市民数	153 人	431 人	137 人	153 人	低下	低下	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の学校教育活動に協力した市民数は137人で、基準値と比較して16人減少しました。 <原因> 学校統合や少子化による学校数、児童生徒数が減少していることや、協力者の高齢化等に伴う担い手不足も要因と考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
学校支援活動に協力した市民数	229 人	—	123 人	229 人	低下	—	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の学校支援活動に協力した市民数は123人で、基準値と比較して106人減少しました。 <原因> 登下校時の見守りなどの活動は、児童数の減少や保護者による送迎、学校の統合による学校数の減少や、PTAで環境整備などの支援活動を担っていることから、学校支援活動に協力した市民数が減少していると考えられます。							

事業名称	コミュニティ・スクール推進事業					[2012]
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 子ども教育課		
基本事業名	06	地域と学校の協力体制の推進	計画年度	令和01年度 ～		
方向性	01	特色ある学校づくりの推進				
事業概要	学校と地域が一体となった特色ある学校づくりを進めるため、市内小・中学校を対象に、コミュニティ・スクール（学校運営協議会の設置）を推進する事業です。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	協議会の開催回数	回	16	22	18	18
活動指標②						
成果指標①	活動部会数	部会	4	6	6	6
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円	582	1,084	827	1,380
活動進捗	順調	＜状況＞協議会の開催数は昨年度の22件から4件減少し、18件でした。活動部会数は昨年度に引き続き6件です。 ＜原因＞昨年度は学校の統廃合等に伴う協議会の開催がありましたが、今年度は通常予定されている年3回の協議会を6部会で開催したため全18回の開催でした。活動部会数は昨年度と変更なく、順調に活動を継続しています。				
成果状況	維持・横ばい					
課題及び今後の取り組み		＜課題＞コミュニティ・スクール制度を導入していない小中学校があります。 ＜今後の取り組み＞未導入の小中学校が地域との連携を充実できるよう、関係機関と連携して取り組むとともに各学校とも課題・目標の共有を図ります。				

事業名称	奨学資金貸付事業					[1558]
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 教育総務課		
基本事業名	06	地域と学校の協力体制の推進	計画年度	平成23年度 ～		
方向性	05	教育の機会均等の支援				
事業概要	教育の機会均等を図るため、家庭の事情等により学費の支弁が困難な者に対して、奨学資金の貸付けを行います。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	奨学資金申請者数	人	0	1	1	5
活動指標②						
成果指標①	奨学資金貸付者数	人	0	1	1	5
成果指標②	奨学資金貸付者の大学卒業率	%	100	100	100	100
事業費（決算及び当初予算）		千円	7	18	17	8
活動進捗	順調	＜状況＞令和4年度と比較して、奨学資金貸付者数の増減はありませんが、奨学資金貸付者の大学卒業率は100%（3/3）で、順調です。 ＜原因＞市民から貸付に対する問い合わせもありましたが、申請に至らなかったケースもあります。本市の制度と他の制度を比較した結果、他の制度を選択したものと考えられます。				
成果状況	維持・横ばい					
課題及び今後の取組み		＜課題＞修学をする上で必要な資金の貸し付けができるよう、経済的理由により修学が困難な者に対して、制度の周知を図る必要があります。 ＜今後の取組み＞県内高校へ募集チラシの配布、市広報紙、SNS等を活用することにより、制度の周知に努めます。				

事業名称	地域人材活用教育支援プラットフォーム形成事業						[1913]
施策名	01	学校教育の充実	担当部署	教育部 子ども教育課			
基本事業名	06	地域と学校の協力体制の推進	計画年度	平成27年度 ～			
方向性	06	地域人材活用教育支援プラットフォーム					
事業概要	子どもたちとシニア世代の相互連携による教えあい、学びあいの場を構築し、グローバル人材を育成するため、山武市学校教育の基盤整備の中核となる「学校支援センター」を設置・運営する事業です。						
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	調査研究のための会議実施数		回	46	47	50	47
活動指標②							
成果指標①	学校支援実施回数		件	746	811	758	804
成果指標②							
事業費（決算及び当初予算）			千円	8,013	8,010	8,016	8,595
活動進捗	一部遅延あり	<状況>学校支援実施回数は、令和4年度より53回減少しました。 <原因>学校からの要望内容に変化があり、1回あたり1～2時間の学習支援等よりも、1回あたり2～3時間の日本語学習支援の要望が増えたことが原因と考えます。					
成果状況	維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		<課題>外国籍児童・生徒への日本語支援の要望が増加しています。本事業による委託事業者と、県費・市費職員が連携した日本語支援体制を充実させることが必要です。 <今後の取組み>引き続き学校が必要とする支援を実施します。また、日本語支援については、県費・市費職員と委託事業者が情報を共有（担当者会議等を開催）し、継続して支援を実施します。					

施策02 生涯学習の推進
施策・基本事業の成果指標

施策の成果指標

成果指標名	単位	基準値	R04実績	R05実績	めざそう値 R08	達成状況
生涯学習に取り組んでいる市民の割合（全般的）	%	26.9	26.8	28.7	33	低

基本事業の成果指標

基本事業	成果指標名	単位	基準値	R04実績	R05実績	めざそう値 R08	達成状況
01	市主催の生涯学習講座の年間参加者数	人	1,142	558	1,108	3,000	低
01	自主クラブ登録数	グループ	111	109	179	111	達成
02	生涯学習施設の利用者数	人	121,277	202,255	218,185	122,000	達成
02	この1年間に図書館を利用したことがある市民割合	%	6.3	—	6.5	7.1	低
02	公共施設維持管理費（生涯学習施設分）	万円	9,515	—	28,356	35,121	達成
03	市民が認識している市内文化財数（全8項目）	項目	3.42	—	3.33	4	低
03	文化財を活用した事業・施設への参加者・入館者数	人	5,302	3,474	4,324	5,400	低
04	芸術文化の鑑賞の機会が充足していると思う市民の割合	%	65.2	68.1	75.8	65.2	達成
04	市主催の芸術文化事業への参加者数	人	2,602	4,088	4,379	2,602	達成
04	芸術文化活動・発表等の機会が充足していると思う市民の割合	%	28.5	22.3	27.5	35	低
05	青少年育成事業・体験学習への児童・生徒参加者数	人	856	989	912	2,553	低

達成状況の概要

施策	件数	基本事業	件数
達成	0	達成	5
高	0	高	0
中	0	中	0
低	1	低	6
—	0	—	0

施策番号 02：生涯学習の推進

施策の環境変化と課題（令和05年度）
・生涯学習の推進については、学習施設の環境整備や世代に沿った自主事業及び講座等のニーズを取り入れ、市民の学習意欲の向上を図ります。 ・施設利用者の高齢化・固定化が進むなか、市民誰もが参加しやすい学習及び文化事業を推進します。また、各施設については、公共施設等総合管理計画に基づき、老朽化等に対する適正配置や維持管理を行います。 ・市内には国が指定する2件の文化財のほか、県12件及び市90件の指定文化財があり、これらを周知・活用した学習機会を増やし、郷土愛の醸成につなげます。 ・芸術文化に対する市民の関心と活動への参加意欲を高めるとともに、郷土芸能活動をはじめ、伝統文化等の継承及び保存活動に取り組んでいきます。 ・青少年の育成については、急速に進むグローバル化に対応するため、海外交流を通して多文化を学び理解することで、国際競争力を身につけ、広い視野を持つ人材の育成を行います。

施策の対象	施策の意図
・市民 (主に学校教育を終了した市民)	・生涯学習の環境が整い、学習の機会が増加することで、市民の学習への取組が活発化し、自己実現が図られます。

施策の成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
生涯学習に取り組んでいる市民の割合（全般的）	26.9 %	26.8 %	28.7 %	33.0 %	横ばい (↑)	横ばい (↑)	低
担当課：生涯学習課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 生涯学習に取り組んでいる市民の割合(全般的)は28.7%で、基準値と比較して1.8ポイント増加しました。 <原因> コロナ禍からの行動制限が緩和されたことに伴い再開した市事業への参加者数が増えたことや、高齢者のサークル数が増加したことなどが要因と考えられます。							

施策番号 02：生涯学習の推進

基本事業番号 01：主体的な学習の推進

基本事業の対象	基本事業の意図
・ 市民	・ 自主的・創造的な学習意欲が高まり、主体的な学習活動が活発化しています。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
市主催の生涯学習講座の年間参加者数	1,142人	558人	1,108人	3,000人	横ばい(↓)	向上	低
担当課：公民館							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の市主催の生涯学習講座の年間参加者数は1,108人で、基準値と比較して34人減少しました。 <原因> 参加者数は、基準値と比較して3%の減となっており、ほぼ横ばいと考えますが、類似ジャンルの講座への参加者が少ないことや、一講座当たりの定員数を少なくした講座があることなどが、参加者数が増加しなかった要因と考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
自主クラブ登録数	111グループ	109グループ	179グループ	111グループ	向上	向上	達成
担当課：公民館							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の自主クラブ登録数は179グループで、基準値と比較して68グループ増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 新型コロナウイルスが5類感染症へ移行したことにより、通常の利用が可能となったことや、高齢者の学習意欲が高まったことが原因だと考えられます。							

事業名称	松尾公民館公営塾運営事業					[1910]	
施策名	02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 公民館			
基本事業名	01	主体的な学習の推進	計画年度	平成27年度 ～ 令和05年度			
方向性	01	生涯学習活動への参加促進					
事業概要	松尾高校生及び市内小中高生を対象とした自習室を常設するほか、検定対策講座を開催します。						
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	講師依頼日数		日	3	4	9	5
活動指標②	公営塾実施日数		日	271	307	308	308
成果指標①	講師依頼日の利用者数		人	118	164	165	130
成果指標②	公営塾利用者数		人	228	241	738	150
事業費（決算及び当初予算）			千円	195	238	633	703
活動進捗	順調	＜状況＞昨年度に比べ、講師依頼日の利用者数が1人の増加、公営塾利用者数は497人の増加です。 ＜原因＞講師依頼日の利用者数増加の理由は、1講座増やしたことによるものです。公営塾利用者数の増加は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され利用者数も回復したと思われます。					
成果状況	向上						
課題及び今後の取り組み		＜課題＞講師依頼日の利用者人数が減少しています。 ＜今後の取り組み＞他課で行っている類似事業も含めて、公営塾としての役割、ニーズを確認し、事業内容の検討を図ります。					

施策番号 02：生涯学習の推進

基本事業番号 02：生涯学習施設の利用促進

基本事業の対象	基本事業の意図
・ 市民	・ 生涯学習施設が適正化され、多くの市民に利用されています。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
生涯学習施設の利用者数	121,277 人	202,255 人	218,185 人	122,000 人	向上	向上	達成
担当課：文化会館							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の生涯学習施設の利用者数は218,185人で、基準値より96,908人増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行し行動制限が緩和されたことによる施設の利用者数の増加及び新規事業の開催や各種講座数を増やしたことが要因と考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
この1年間に図書館を利用したことがある市民割合	6.3 %	—	6.5 %	7.1 %	横ばい (↑)	—	低
担当課：図書館							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度のこの1年間に図書館を利用した事がある市民の割合は6.5%で、基準値と比較して0.2ポイント増加しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症対策による利用制限がなくなったことや、定例おはなし会を再開するなどコロナ禍前に近い状況で事業を実施したことが要因と考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
公共施設維持管理費（生涯学習施設分）	9,515 万円	—	28,356 万円	35,121 万円	低下	—	達成
担当課：文化会館							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の公共施設維持管理費（生涯学習施設分）は28,356万円で、基準値より18,841万円増加しましたが、めざそう値を達成しました。 <原因> 各施設の老朽化が進み、修繕料や改修工事が増加しましたが、適宜補修等を実施してきたことが要因と考えられます。							

事業名称	松尾図書館運営事業					[1044]	
施策名	02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 図書館			
基本事業名	02	生涯学習施設の利用促進	計画年度	～			
方向性	02	図書館利用の促進					
事業概要	松尾図書館運営事業は、公共図書館として利用者に必要な情報の拠点となるよう、図書の整備、各種事業を実施します。また、3館の全体に関わる図書館システム等を一括して計上します。						
		指標・事業費の推移	単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	開館日数		日	250	280	274	109
活動指標②	松尾図書館蔵書冊数		冊	92,242	94,559	96,383	80,000
成果指標①	松尾図書館の利用登録者数		人	8,267	8,412	7,638	6,500
成果指標②	松尾図書館貸出冊数		冊	64,510	65,925	66,608	25,000
事業費（決算及び当初予算）			千円	16,620	15,915	11,839	10,922
活動進捗	順調	＜状況＞①前年度と比較して、利用登録者数は774人減少しました。②前年度と比較して、貸出冊数は683冊増加しました。 ＜原因＞①図書館システム更新等業務において、10年以上図書館を利用していない利用者登録情報を削除したことが要因と考えられます。②中止していた定例おはなし会等の再開や、新規事業等の開催による利用者の増加が要因と考えられます。					
成果状況	維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		＜課題＞定例おはなし会の再開など、前年度よりも貸出冊数は増加しましたが、予算の縮小や人口の減少等により、大幅な増加は見込めません。また、令和6年度に空気調和設備等の改修工事に伴う臨時休館を予定しています。 ＜今後の取組み＞選書会議を実施し、市内3図書館の効率的な蔵書構成を構築することで、財政規模に見合った図書館運営を目指します。また、臨時休館中に可能な利用者サービスを検討します。					

事業名称	成東図書館運営事業					[1046]
施策名	02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 図書館		
基本事業名	02	生涯学習施設の利用促進	計画年度	～		
方向性	02	図書館利用の促進				
事業概要	成東図書館運営事業は、公共図書館として利用者に必要な情報の拠点となるよう、図書の整備、各種事業を行います。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	開館日数	日	248	280	273	281
活動指標②	成東図書館蔵書冊数	冊	103,676	108,708	111,456	100,000
成果指標①	成東図書館の利用登録者数	人	11,170	11,447	8,961	8,000
成果指標②	成東図書館貸出冊数	冊	103,676	120,433	142,006	100,000
事業費（決算及び当初予算）		千円	4,783	5,032	5,428	5,231
活動進捗	順調	＜状況＞①前年度と比較して、利用登録者数は2,486人減少しました。②前年度と比較して、貸出冊数は21,573冊増加し順調です。 ＜原因＞①図書館システム更新等業務において、10年以上図書館を利用していない利用者登録情報を削除したことが要因と考えられます。②定例事業のおはなし会等を再開しました。また、さんぶの森図書館の臨時休館により、その利用者が成東図書館を利用したことが要因と考えられます。				
成果状況	向上					
課題及び今後の取組み		＜課題＞定例おはなし会の再開などコロナ禍前に近い状態で活動をした結果、前年度より貸出冊数や一日あたりの利用状況は向上しました。しかし、予算の縮小や人口の減少等により、継続しての増加は見込めません。 ＜今後の取組み＞各種事業の見直し、他部署との連携事業による広報活動の強化、ホームページ等による情報発信を行い、利用の増加に努めます。また、選書会議を実施し、市内3図書館の効率的な蔵書構成を構築することで、財政規模に見合った図書館運営を目指します。				

事業名称	さんぶの森図書館運営事業					[1047]
施策名	02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 図書館		
基本事業名	02	生涯学習施設の利用促進	計画年度	～		
方向性	02	図書館利用の促進				
事業概要	さんぶの森図書館運営事業は、公共図書館として利用者に必要な情報の拠点となるよう、図書の整備、各種事業を行います。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	開館日数	日	250	281	231	255
活動指標②	さんぶの森図書館蔵書冊数	冊	99,223	100,035	101,491	90,000
成果指標①	さんぶの森図書館の利用登録者数	人	9,032	9,202	6,770	6,900
成果指標②	さんぶの森図書館貸出冊数	冊	78,487	77,960	75,550	70,000
事業費（決算及び当初予算）		千円	2,706	3,005	3,329	3,209
活動進捗	順調	＜状況＞①前年度と比較して、利用登録者数は2,432人減少しました。②前年度と比較して、貸出冊数は2,410冊減少しましたが、一日あたりの貸出冊数は49.7冊増加しました。 ＜原因＞①図書館システム更新等業務において、10年以上の図書館未利用者を登録削除したことが要因と考えられます。②図書館システム更新等業務及び施設改修工事に伴う臨時休館のため、開館日数が当初の予定より37日間減少したことが要因と考えられます。				
成果状況	低下					
課題及び今後の取組み		＜課題＞各種事業を実施し順調に活動をしましたが、臨時休館のため、前年度より貸出冊数が低下しています。また、令和6年度も施設改修工事のため、臨時休館期間が発生する予定です。 ＜今後の取組み＞各種事業の見直し、広報やホームページ等による情報発信を行い、利用の増加に努めます。また、選書会議を実施し、市内3図書館の効率的な蔵書構成を構築することで、財政規模に見合った図書館運営を目指します。				

事業名称	松尾図書館施設管理事業					[2189]
施策名	02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 図書館		
基本事業名	02	生涯学習施設の利用促進	計画年度	令和04年度 ～		
方向性	02	図書館利用の促進				
事業概要	【令和5年度大幅増減事業】 松尾図書館と松尾藩資料館のある松尾IT保健福祉センター2階部分の施設管理を行います。また、空調設備の設計積算業務委託を行います。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	松尾図書館の修繕件数	件		7	4	7
活動指標②						
成果指標①	松尾図書館の不具合件数	件		7	4	7
成果指標②	クレーム件数	件		0	0	0
事業費（決算及び当初予算）		千円		5,954	8,766	247,383
活動進捗	順調	<現況>施設の管理のために5件の業務委託を行いました。不具合は4件発生しましたが、修理実績は100%で順調です。 <原因>松尾図書館は平成16年に建設され19年が経過しており、経年による老朽化が不具合の発生原因と思われます。				
成果状況	維持・横ばい					
課題及び今後の取組み		<課題> 経年による設備の老朽化に伴い、松尾図書館の計画的な改修が必要です。 <今後の取組み> 令和5年度に実施した空気調和設備等工事の設計をもとに、令和6年度に工事を実施します。当初予定していた入札が不調となり、工期が遅れています。工事期間中は、松尾図書館は臨時休館となります。				

事業名称	成東文化会館施設管理事業					[959]	
施策名	02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 文化会館			
基本事業名	02	生涯学習施設の利用促進	計画年度	～			
方向性	03	生涯学習施設の整備					
事業概要	地域文化活動の拠点として成東文化会館のぎくプラザ（成東図書館併設）の利用者が、安心、安全に利用できるよう施設の修繕や法定点検等の維持管理を行います。						
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	開館日数		日	259	293	294	292
活動指標②	業務委託及び借上件数		件	29	27	27	27
成果指標①	施設貸出数		件	537	741	789	900
成果指標②	施設苦情件数		件	0	0	0	0
事業費（決算及び当初予算）			千円	34,890	39,609	48,272	43,114
活動進捗	順調	＜状況＞施設貸出数は、令和４年度から48件増加しており、事業成果は向上しています。また、施設苦情件数は令和４年度に引き続き0件であり、順調です。 ＜原因＞新型コロナウイルス感染症が２類から５類に以降したことにより、貸出数が回復してきていることが要因と考えられます。また、施設苦情件数が0件であったことは、日常管理に務めた結果と考えます。					
成果状況	向上						
課題及び今後の取組み		＜課題＞施設の老朽化に伴い施設改修工事の計画があり貸出ができない期間が発生します。 ＜今後の取組み＞利用団体との調整と利用者への周知を行う予定です。					

事業名称	成東中央公民館施設改修事業					[1975]
施策名	02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 公民館		
基本事業名	02	生涯学習施設の利用促進	計画年度	平成30年度 ～ 令和05年度		
方向性	03	生涯学習施設の整備				
事業概要	成東中央公民館の利用者が、施設を安心して利用できるように老朽化したエレベーターを安全基準を満たすように全面改修工事を行います。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	補修箇所数	箇所	0	0	0	1
活動指標②						
成果指標①	不具合発生件数	件	0	0	0	0
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円			902	
活動進捗	遅延あり	＜状況＞エレベーターの老朽化による改修工事を実施できませんでした。 ＜原因＞改修工事を行うために必要な部品の調達及び業務を行う人材が不足しているためです。				
成果状況	低下					
課題及び今後の取組み		＜課題＞成東中央公民館の利用者の安全を確保するため、老朽化したエレベーターを改修する必要があります。 ＜今後の取組み＞現在のエレベーター安全基準を満たすよう全面改修を行います。				

事業名称		さんぶの森公園グリーントワー外壁等改修事業				[1952]	
施策名		02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 運動公園管理事務所		
基本事業名		02	生涯学習施設の利用促進	計画年度	平成30年度 ～		
方向性		03	生涯学習施設の整備				
事業概要		【令和5年度大幅増減事業】 さんぶの森公園内施設のグリーントワーの施設老朽化に伴い、改修工事を行ないます。（外壁等の雨漏り対策、階段等撤去・新設、塗装等工事） 令和5年度は外壁等の改修工事を行なうことから、事業費は増額となります。					
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	委託件数		件		1	1	1
活動指標②	工事件数		件		0	0	0
成果指標①	改修進捗率		%		30	0	0
成果指標②							
事業費（決算及び当初予算）			千円		495	3,080	3,630
活動進捗	遅延あり	＜状況＞外壁等改修工事について、入札の不調により工事を行う事ができませんでした。 ＜原因＞工事業者の作業員等の不足、労務費や資材価格の高騰により、入札が不調になったと考えられます。					
成果状況	低下						
課題及び今後の取組み		＜課題＞改修工事後の具体的な維持管理、更新時期を踏まえ、改修工事の執行が求められています。 ＜今後の取組み＞さんぶの森グリーントワーについては、現在、老朽化が著しいことから、早急に改修工事を実施し、現在、市として防災行政無線の発信基地として活用されていることから、今後、関係課との調整を行い、主体構造部の状態を調査により把握、目標とする耐用年数の設定をするとともに、適正な維持管理においての計画を策定する必要があります。					

事業名称		さんぶの森公園ふれあいセンター施設改修事業				[2197]	
施策名		02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 運動公園管理事務所		
基本事業名		02	生涯学習施設の利用促進	計画年度	令和03年度 ～		
方向性		03	生涯学習施設の整備				
事業概要		【令和5年度大幅増減事業】 さんぶの森公園内施設のふれあいセンターの施設老朽化に伴い、改修工事を行ないます。（屋根、外防水、電気ＬＥＤ化、空調、トイレ洋式化等工事） 令和5年度は施設の全面改修工事を行なうことから、事業費は増額となります。					
指標・事業費の推移			単位	R03年度実績	R04年度実績	R05年度実績	R06年度当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	打合せ回数		回		2	10	5
活動指標②							
成果指標①	改修進捗率		%		30	60	100
成果指標②							
事業費（決算及び当初予算）			千円		3,014	96	
活動進捗	順調	＜状況＞改修工事については、進捗率が60%となり順調です。 ＜原因＞スケジュールを組み、監理業者・施工業者と調整を行いながら進めたことによるものです。					
成果状況	維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		＜課題＞改修後の施設について計画的な維持管理を進めるとともに、関係部署と調整のうえ、施設の今後について取り決める必要があります。 ＜今後の取組み＞さんぶの森ふれあいセンターについては、図書館や文化ホールなどの関係課との調整を行い、公共施設個別施設計画に基づき、集約化や廃止、更新などを踏まえて検討する必要があります。 また、主体構造部の状態を調査により把握し、目標とする耐用年数の設定をするとともに、予算の平準化等、適正な維持管理においての計画を策定のうえ、修繕における具体的な年次を設定する必要があります。					

施策番号 02：生涯学習の推進

基本事業番号 03：文化財の保護・活用

基本事業の対象	基本事業の意図
・ 市民 ・ 文化財	・ 文化財の活用により、市民の文化財への関心が高まり、文化財が保護、継承されます。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
市民が認識している市内文化財数（全8項目）	3.42 項目	—	3.33 項目	4.0 項目	横ばい （↓）	—	低
担当課：歴史民俗資料館							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
<状況> 令和5年度の市民が認識している市内文化財数（全8項目）は3.33項目で、基準値と比較して0.09項目減少しました。 <原因> コロナ禍を契機に、行事や祭礼に参加する機会が減少するなど、身近にある文化財への認識が希薄になりつつあることが原因と考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
文化財を活用した事業・施設への参加者・入館者数	5,302 人	3,474 人	4,324 人	5,400 人	低下	向上	低
担当課：歴史民俗資料館							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
<状況> 令和5年度の文化財を活用した事業・施設への参加者・入館者数は4,324人で、基準値と比較して978人減少しました。 <原因> 施設の入館者数は、コロナ禍以降バスでの団体来館が減少し、家族単位など少人数化したことなどが原因と考えられます。							

事業名称	歴史民俗資料館各種事業					[945]
施策名	02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 歴史民俗資料館		
基本事業名	03	文化財の保護・活用	計画年度	～		
方向性	01	歴史資料の保存と活用				
事業概要	資料館内企画展（山武市の山と海の生業展）収蔵品展（2階郷土史コーナー）、特別展（左千夫生家）、資料館外企画展（成東文化会館・さんむの森展示ギャラリー・成東中央公民館）、夏休み体験講座の実施、郷土の歴史資料の公開活用を図ります。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	チラシ・ポスター配布先件数	件	506	1,519	1,519	1,591
活動指標②	開催事業回数	回	15	38	35	25
成果指標①	開催事業参加割合	%	算定不可	99	121	100
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円	96	104	123	151
活動進捗	順調	＜状況＞企画展の見学者数は2,840人で、令和4年度と比較して393人増加しました。また夏休み体験講座の参加者数は100人で、令和4年度と比較して43人増加しました。外部への講師派遣回数は令和4年度と同じ8回でしたが対象人数は347人で令和4年度と比較して18人増加しました。				
成果状況	向上	＜原因＞見学者数の増加は展示内容がNHKで放映された牧野富太郎に関するものであったこと、地震災害等に関する展示をしていた期間に能登半島地震が発生するなど、世間一般の関心と展示内容が合致したことによると考えます。				
課題及び今後の取組み		＜課題＞今後とも、世間一般の興味・関心がどこにあるのかリサーチを行い、来館したくなるような事業展開を行う必要があります。 ＜今後の取組み＞テレビ、新聞、雑誌、他館での取組みの成果や課題を拾い上げ、展示資料の作成や講座での講演内容に活かして参ります。また、マスコミと連携して事業の周知活動を行って参ります。				

事業名称	歴史民俗資料館改修事業					[1224]	
施策名	02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 歴史民俗資料館			
基本事業名	03	文化財の保護・活用	計画年度	令和01年度 ～ 令和04年度			
方向性	01	歴史資料の保存と活用					
事業概要	令和4・5年度は外壁改修工事（令和5年度は繰越明許）を実施、工事期間は、令和4年11月から令和5年6月末までを予定しています。 令和6年度は屋外トイレ庇及び扉改修の工事設計を実施、工事期間は令和7年度中の予定です。						
		指標・事業費の推移	単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	資料館改修工事数		件	0	1	1	0
活動指標②	身障者の来館数		人	59	56	67	70
成果指標①	年間来館者数		人	2,431	2,447	2,840	2,900
成果指標②							
事業費（決算及び当初予算）			千円		6,999		737
活動進捗	順調	＜状況＞外壁改修工事は令和5年6月末に完了しました。年間来館者数は令和4年度と比較して393人増加しており、順調です。また身障者の来館者数も令和4年度と比較して11人増加しています。 ＜原因＞身障者の来館者数の増加は、年間来館者数の増加によるものと考えられます。また、年間来館者数の増加は、改修工事が終了したことにより、騒音が出なくなったことと、防音シートや足場が解体されたことにより来館しやすい環境が整ったこと、サンブスギを用いた外壁が来館者の興味・関心を引いたことによるものと考えられます。					
成果状況	向上						
課題及び今後の取組み		＜課題＞市の歴史・文化について学習する施設として、施設の長寿命化を図り、安心・安全な見学環境を維持していくことが課題です。 ＜今後の取組み＞施設の長寿命化に必要な改修工事を計画的に行い、安心・安全な見学環境を維持して参ります。					

事業名称		食虫植物群落保護管理事業					[953]	
施策名	02	生涯学習の推進		担当部署	教育部 歴史民俗資料館			
基本事業名	03	文化財の保護・活用		計画年度	平成18年度～			
方向性	03	指定文化財の保存と活用						
事業概要		国指定天然記念物（第1号）「成東・東金食虫植物群落」の保護・増殖のための経費です。年間の監視活動、草刈や野焼き等の9回の維持管理活動の他、文化庁認可の保存活用計画を令和6年度迄に策定し、今後の保全に万全の体制を構築します。						
指標・事業費の推移				単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称							
活動指標①	予算等で計画した保護事業（作業等）の件数			回	9	9	9	9
活動指標②	見学者への対応			人	2,393	1,885	1,681	1,700
成果指標①	予算等で計画した保護事業（作業等）の実施件数			回	9	9	9	9
成果指標②	見学者数			人	2,393	1,885	1,681	1,700
事業費（決算及び当初予算）				千円	1,746	1,917	1,829	2,493
活動進捗	一部遅延あり	＜状況＞見学者数が令和4年度より204人減少しており、一部遅延しています。 ＜原因＞新型コロナウイルス感染症蔓延や見学制限解除以降も、団体見学者数の回復が見られないことが原因と考えられます。						
成果状況	低下							
課題及び今後の取組み		＜課題＞アフターコロナ以降も、団体見学者の数が回復しません。見学者数の減少は、食虫植物群落への興味・関心の薄れに繋がり、ひいては群落の周辺環境悪化等による食虫植物の活力低下という深刻な現状認識が弱まってしまう恐れがあるので、なるべく多くの方に来場していただき現状認識を強化していく必要があります。 ＜今後の取組み＞食虫植物群落の現状を広く認識していただくため、外来植物の除去作業について市民にボランティアとして参加していただいたり、近隣大学の環境教育の一環として参加していただく活動を行います。						

施策番号 02：生涯学習の推進

基本事業番号 04：芸術文化活動の充実

基本事業の対象	基本事業の意図
・ 市民	・ 芸術文化の鑑賞・活動・発表等を通じて、芸術文化に親しみ心豊かな潤いのある生活を送っています。 ・ 芸術文化活動に参加できる体制が整っています。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
芸術文化の鑑賞の機会が充足していると思う市民の割合	65.2%	68.1%	75.8%	65.2%	向上	向上	達成
担当課：文化会館							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の芸術文化の鑑賞の機会が充足していると思う市民の割合は75.8%で、基準値より10.6ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 適切なタイミングで情報発信を行ったこと及び、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したことにより自粛傾向が緩和されたことが要因と考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
市主催の芸術文化事業への参加者数	2,602人	4,088人	4,379人	2,602人	向上	向上	達成
担当課：文化会館							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の市主催の芸術文化事業への参加者数は4,379人で、基準値より1,777人増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 過去の市主催の芸術文化事業で得たアンケート結果を参考に事業を実施したこと及び新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したことによる自粛傾向の緩和が要因と考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
芸術文化活動・発表等の機会が充足していると思う市民の割合	28.5%	22.3%	27.5%	35.0%	横ばい(↓)	向上	低
担当課：公民館							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の芸術文化活動・発表等の機会が充足していると思う市民の割合は27.5%で、基準値と比較して1.0ポイント減少しました。 <原因> 発表の機会を設けてはいますが、参加者の固定化や高齢化により、新規参加者が減少したことが原因と考えられます。							

事業名称	成東文化会館自主事業						[956]
施策名	02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 文化会館			
基本事業名	04	芸術文化活動の充実	計画年度	～			
方向性	01	文化会館自主事業の充実					
事業概要	子どもと育つ、アーティストと育つ、人材が育つ、参加者と育つという目標を達成するために鑑賞型・参加型の催しを企画・運営・広報等を行う事業です。						
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	PR件数		件	78	95	105	100
活動指標②	自主事業開催本数		本	19	19	21	19
成果指標①	入場者数		人	1,257	2,321	3,523	1,500
成果指標②	自主事業に対する満足度		%	90.44	87.7	86	90
事業費（決算及び当初予算）			千円	9,359	7,850	9,461	8,064
活動進捗	順調	＜状況＞自主事業入場者数が、令和4年度比で51.8%増加(1,202人増)し、事業成果は向上です。 ＜原因＞前年度より2事業多い21事業を開催し、ダンスフェスティバルなどのホールイベントや、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したことから、入場者が増加したことが要因と考えられます。					
成果状況	向上						
課題及び今後の取組み		＜課題＞新型コロナウイルスの5類への移行により、来場者数の回復を図る必要があります。 ＜今後の取組み＞SNSを活用した事業開催の情報発信などを実施し、来場者数の増加を図ります。					

事業名称	さんぶの森文化ホール自主事業						[957]
施策名	02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 文化会館			
基本事業名	04	芸術文化活動の充実	計画年度	～			
方向性	01	文化会館自主事業の充実					
事業概要	子どもと育つ、アーティストと育つ、人材が育つ、参加者と育つという目標を達成するための具体的事業を計画し実行します。						
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	P R件数		件	28	35	45	45
活動指標②	自主事業開催本数		本	7	9	9	8
成果指標①	入場者数		人	518	800	856	530
成果指標②	自主事業に対する満足度		%	87.55	86.98	87.08	85
事業費（決算及び当初予算）			千円	2,061	2,235	2,035	2,203
活動進捗	順調	＜状況＞自主事業入場者数は、令和4年度比で7%増加し、(56人増)し、事業成果は向上です。 ＜原因＞当初計画通り9事業実施できたことが要因と考えられます。					
成果状況	向上						
課題及び今後の取組み		＜課題＞予算削減により縮小した事業数の中で、多くの来場者を得られる事業を展開する必要があります。 ＜今後の取組み＞イベント等に関する情報収集を積極的に行い、実施する事業を精査します。					

事業名称	各種講座事業					[1051]	
施策名	02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 公民館			
基本事業名	04	主体的な学習の推進	計画年度	～			
方向性	02	生涯学習活動への参加促進					
事業概要	生涯学習の推進を図るため、各種講座を開催します。						
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	企画講座数		講座	17	14	27	32
活動指標②	講座実施回数（延べ）		回数	63	26	93	100
成果指標①	企画講座の成立割合		%	94	70	92.6	90
成果指標②	講座参加者数（総数）		人	194	162	842	700
事業費（決算及び当初予算）			千円	358	196	620	669
活動進捗	順調	＜状況＞講座参加者数が令和4年度と比べて680人増加しました。 ＜原因＞企画講座数が約2倍になったことが原因と考えられます。また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、外出自粛が求められなくなったため、市民の生活様式が新型コロナウイルス感染症が流行する前の状況に戻りつつあることが考えられます。					
成果状況	向上						
課題及び今後の取組み		＜課題＞予算額の縮小に伴い、複数回の講座を行う事が困難になっています。 ＜今後の取組み＞要望の多い講座について検討を行い、必要な予算について要望します。					

施策番号 02：生涯学習の推進
基本事業番号 05：青少年の育成

基本事業の対象	基本事業の意図
・ 青少年	・ 健全に育成され、さまざまな体験をして見聞を広めます。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
青少年育成事業・体験学習への児童・生徒参加者数	856 人	989 人	912 人	2,553 人	横ばい (↑)	低下	低
担当課：生涯学習課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の青少年育成事業等への児童・生徒の参加者数は912人で、基準値と比較して56人増加しました。 <原因> コロナ禍からの行動制限の緩和により、少年海外派遣支援事業の再開や、青少年育成団体の事業がコロナ禍前と同じく開催できたことが原因と考えられます。							

事業名称		二十歳を祝う会開催事業					[966]	
施策名		02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 生涯学習課			
基本事業名		05	青少年の育成	計画年度	～			
方向性		01	青少年健全育成活動の推進					
事業概要		成人となったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます式典とするため、成人者自らが実行委員会を組織し、式典の企画・運営に携わります。 令和4年度から式典名を「二十歳を祝う会」としています。						
		指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分		指 標 名 称						
活動指標①		成人式出席者数		人	565	336	347	397
活動指標②		実行委員会との打合せ回数		回	9	7	6	7
成果指標①		成人式の出席率		%	69.07	80.58	80.14	75
成果指標②		成人式の企画に関わった新成人数（実行委員数）		人	34	29	27	30
事業費（決算及び当初予算）				千円	668	554	697	852
活動進捗		順調		＜状況＞今年度から3部構成を従来通りの2部構成で実施しました。令和4年度と比較し、出席率は0.44ポイント低下し80.14%となりました。 ＜原因＞山武市からの転出者の参加人数が低下したことで全体の出席率が低下したものと考えられます。				
成果状況		低下						
課題及び今後の取組み		＜課題＞新型コロナウイルス感染症対策による行動制限が緩和されましたが、新成人の参加率が僅かに減少しました。 ＜今後の取組み＞参加率向上のため、SNSでの定期的な発信やホームページの継続的な更新等の情報発信の強化を図ります。						

事業名称		少年海外派遣支援事業					[976]	
施策名		02	生涯学習の推進	担当部署	教育部 生涯学習課			
基本事業名		05	青少年の育成	計画年度	平成18年度 ～			
方向性		03	グローバル人材の育成					
事業概要		【令和5年度大幅増減事業】 山武市内に在住の中学生・高校生を海外に派遣し、その国の自然・文化及び社会情勢等を見聞し、広い視野と国際感覚豊かな人材育成を目的とします。山武市少年海外派遣団の補助金申請に対して、内容を審査し補助金を交付します。						
		指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分		指 標 名 称						
活動指標①		打合せ日数（面接・結団式・研修会）		日	0	2	10	7
活動指標②								
成果指標①		海外派遣により、国際感覚が身についたと思う参加者の割合		%	0	100	100	100
成果指標②								
事業費（決算及び当初予算）				千円		387	4,221	4,624
活動進捗	非常に順調	＜状況＞国際感覚が身についたと思う参加者の割合は、令和4年度と同じ100%で順調です。 ＜原因＞事前研修、海外でのホームステイや研修で異文化の生活を体験したことで広い視野が身につき、自信がついたものと考えます。						
成果状況	向上							
課題及び今後の取り組み		＜課題＞市内各中学校で参加する生徒の数に偏りが生じています。 ＜今後の取り組み＞参加者数の少ない学校に対して、募集の案内だけでなく海外研修の魅力を発信するなど周知方法等を工夫します。						

施策03 スポーツの振興
施策・基本事業の成果指標

施策の成果指標

成果指標名	単位	基準値	R04実績	R05実績	めざそう値 R08	達成状況
スポーツ活動に親しむ市民の割合	%	28	30.1	25.5	32.4	低

基本事業の成果指標

基本事業	成果指標名	単位	基準値	R04実績	R05実績	めざそう値 R08	達成状況
01	スポーツ大会・教室へ参加した市民の割合	%	5.4	6.3	7.1	10.1	低
01	スポーツ大会・教室の機会の充足度	%	66.8	68.7	76.2	69	達成
02	スポーツ団体数(総合型地域スポーツクラブを含む)	団体	48	49	48	50	低
02	体育関係団体の指導者数	人	76	88	89	135	低
03	体育施設の利用者数	人	71,523	110,587	120,787	124,000	高
03	公共施設維持管理費(社会体育施設分)	万円	6,342	—	8,742	12,279	達成

達成状況の概要

施策	件数	基本事業	件数
達成	0	達成	2
高	0	高	1
中	0	中	0
低	1	低	3
—	0	—	0

施策番号 03：スポーツの振興

施策の環境変化と課題（令和05年度）
・市公式チャンネルを活用した各団体による活動内容のPRや、市民参加型の魅力的なスポーツイベントの開催など、運動意欲を高める機会や環境づくりに取り組みます。 ・専門的な知識や技術を有する指導者を育成し、スポーツ活動へ参加機会の充実を図り、参加者が減少傾向にあるスポーツ少年団等への加入を促進します。 ・スポーツ施設の管理については、公共施設総合管理計画に基づき、施設の適正な管理を行い、利用者の安全性の確保と利便性の向上を図ります。

施策の対象	施策の意図
・市民	・継続的にスポーツを行うことにより、心身ともに健康な生活を営むことができます。

施策の成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
スポーツ活動に親しむ市民の割合	28 %	30.1 %	25.5 %	32.4 %	低下	低下	低
担当課：スポーツ振興課							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
＜状況＞ 令和5年度のスポーツ活動に親しむ市民の割合は25.5%で、基準値と比較して2.5ポイント減少しました。 ＜原因＞ コロナ禍によって生活様式の変化があり、社会状況は改善しましたが、個々人のスポーツに対しての意識は以前のように回復しきっていないことが要因であると考えます。							

施策番号 03：スポーツの振興
基本事業番号 01：スポーツ活動の充実

基本事業の対象	基本事業の意図
・ 市民	・ スポーツ活動に参加する機会が増え、より多くの市民がスポーツに親しむことができます。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
スポーツ大会・教室へ参加した市民の割合	5.4%	6.3%	7.1%	10.1%	横ばい(↑)	横ばい(↑)	低
担当課：スポーツ振興課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度のスポーツ大会・教室へ参加した市民の割合は7.1%で、基準値と比較して1.7ポイント増加しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、スポーツ大会や教室がコロナ禍前と同様に開催できたことが要因として考えられます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう値	対基準値	対前年度	目標達成度
スポーツ大会・教室の機会の充足度	66.8%	68.7%	76.2%	69.0%	向上	向上	達成
担当課：スポーツ振興課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度のスポーツ大会・教室の機会の充足度は76.2%で、基準値と比較して9.4ポイント増加し、めざそう値を達成しました。 <原因> 市民体育祭に代わるイベントとして市民参加型の「エンジョイスports in山武2023」を開催した他、「スポーツフェスタ」「出前講座」等を通して軽スポーツの普及に努めたことが要因として考えられます。							

事業名称	体力づくり事業					[991]
施策名	03	スポーツの振興	担当部署	教育部 スポーツ振興課		
基本事業名	01	スポーツ活動の充実	計画年度	平成19年度 ～		
方向性	01	健康体力づくり活動の充実				
事業概要	体力づくりのきっかけとして、誰でも気軽に参加できる「スポーツフェスタ」、「軽スポーツ教室」、「体力テスト」を開催します。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	役員会開催数	回	3	2	1	3
活動指標②	住民への周知回数	回	4	4	1	6
成果指標①	参加者数	人	0	71	57	150
成果指標②	開催回数	回	0	1	1	2
事業費（決算及び当初予算）		千円	87	229	17	472
活動進捗	一部遅延あり	＜状況＞スポーツフェスタは開催出来ましたが、社会福祉協議会主催の健康福祉まつりについては荒天のため中止となり、同イベント時に実施予定であった体力測定も行うことが出来なかったことから成果については維持・横ばいとなりました。 ＜原因＞荒天による来場者の安全を考慮し、一部事業を中止したことが原因と考えられます。				
成果状況	維持・横ばい					
課題及び今後の取組み		＜課題＞感染拡大防止のため、令和2、3年度は事業が中止となりましたが、健康・体力づくりへの意識向上のため、コロナ禍でも実施可能な事業を検討する必要があります。 ＜今後の取組み＞スポーツ推進委員連絡協議会と連携を図り、新たな種目や内容の検討を行います。				

事業名称	スポーツ協会補助事業					[1187]
施策名	03	スポーツの振興	担当部署	教育部 スポーツ振興課		
基本事業名	01	スポーツ活動の充実	計画年度	平成18年度 ～		
方向性	01	健康体力づくり活動の充実				
事業概要	山武市内のスポーツ団体を統轄し、生涯スポーツを健全に普及させ、生涯スポーツ文化の建設に寄与することを目的とする活動に対し補助金を交付します。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	主催・主管の大会・研修・講習会等に係る会議の開催回数	回	8	13	7	18
活動指標②	助成金を交付した加盟団体数	団体	29	18	29	29
成果指標①	主催・主管の大会・研修・講習会等の件数	件	0	0	0	7
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円	1,752	2,426	3,672	4,030
活動進捗	遅延あり	＜状況＞主催・主管の大会・研修・講習会は実施がなかったため、事業成果は低下しています。 ＜原因＞新型コロナウイルスで活動を自粛していたことに伴い、活動再開の準備段階であることが原因として考えられます。				
成果状況	低下					
課題及び今後の取組み		＜課題＞スポーツ協会専門部（22競技）の活動内容を知らない市民の方が多いため、各競技人口が減少しています。 ＜今後の取組み＞各専門部の活動動画の撮影を行いYouTube「山武市公式チャンネル」に掲載し、各専門部の活動を市民へ周知を図ります。				

施策番号 03：スポーツの振興

基本事業番号 02：体育関係団体・指導者の育成

基本事業の対象	基本事業の意図
・ 市民 ・ 体育関係団体 ・ 指導者	・ 体育関係団体・指導者が育成され、地域でのスポーツ活動が活発になります。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
スポーツ団体数（総合型地域 スポーツクラブを含む）	48 団体	49 団体	48 団体	50 団体	横ばい （↑）	横ばい （↓）	低
担当課：スポーツ振興課							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
<状況> 令和5年度のスポーツ団体数（総合型地域スポーツクラブを含む）は48団体で、基準値と同数です。 <原因> 少子化により児童・生徒の減少が進行していることで、スポーツ団体への加入者数の増加が見込めないことや、そもそもの人口減少によって、組織する大人の人数も減少しているため、新規での団体数が増加しなかった要因と考えます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
体育関係団体の指導者数	76 人	88 人	89 人	135 人	向上	横ばい （↑）	低
担当課：スポーツ振興課							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
<状況> 令和5年度の体育関係団体の指導者数は89人で、基準値と比較して13人増加しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症が5類移行され、団体活動がコロナ前に戻ったことにより、スポーツ少年団等のクラブチームが積極的に指導員登録を行ったことが要因と考えられます。							

事業名称		芸術文化スポーツ活動報奨金交付事業					[1795]	
施策名		03	スポーツの振興	担当部署	教育部 教育総務課			
基本事業名		02	体育関係団体・指導者の育成	計画年度	平成26年度～			
方向性		03	スポーツ活動への支援					
事業概要		芸術文化活動・スポーツ活動を精励し、全国大会等に出場する者（個人又は団体）に対して報奨金を交付し、その栄誉を称えるとともに、本市の芸術文化スポーツ活動の振興を図ります。						
		指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分		指 標 名 称						
活動指標①		報奨金年間交付金額（個人）		千円	240	790	660	500
活動指標②		報奨金年間交付金額（団体）		千円	80	230	410	250
成果指標①		報奨金交付者数（個人）		人	15	37	31	35
成果指標②		報奨金交付者数（団体）		団体	2	5	9	7
事業費（決算及び当初予算）				千円	320	1,020	1,070	750
活動進捗		順調		＜状況＞令和4年度と比較して、報奨金交付者数（個人）は6人減少していますが、報奨金交付者数（団体）は4件増加しており、順調です。 ＜原因＞広報誌やSNS等を活用したことによって、制度の周知が図られていることが主な要因と考えられます。				
成果状況		維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		＜原因＞新型コロナウイルスの影響により中止となっていた各種大会等が徐々に開催されるようになったこともあり、改めて市民への制度周知が必要です。 ＜今後の取組み＞市広報紙、SNS等を活用することにより、制度の周知に努めます。						

事業名称	総合型地域スポーツクラブ育成事業					[1143]
施策名	03	スポーツの振興	担当部署	教育部 スポーツ振興課		
基本事業名	02	体育関係団体・指導者の育成	計画年度	平成22年度 ～		
方向性	03	スポーツ活動への支援				
事業概要	地域社会の活力を生かし、組織の自立とコミュニティづくりを目指す「総合型地域スポーツクラブ」の人材育成を行うとともに、クラブの支援を行います。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	研修会参加者数	数	0	0	0	20
活動指標②						
成果指標①	設置クラブ数	数	1	1	1	1
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円	20			20
活動進捗	一部遅延あり	＜状況＞設置クラブ数は1クラブで、コロナ対策の影響により活動を全面的に休止しているため、成果状況は維持・横ばいです。 ＜原因＞新型コロナで活動を自粛していたことにより、活動再開に向け準備段階の状況であることが原因と考えられます。				
成果状況	維持・横ばい					
課題及び今後の取組み		＜課題＞クラブ設立後、新型コロナウイルスの影響により思うような活動ができず、地域の方々がスポーツを通じて交流を深める機会が減少しています。 ＜今後の取組み＞総合型地域スポーツクラブの活性化のため、クラブと連携し講師派遣等の支援を行い交流機会の増加を図ります。				

施策番号 03：スポーツの振興
基本事業番号 03：体育施設の利用促進

基本事業の対象	基本事業の意図
・ 市民	・ 体育施設が適正化され、快適に利用することができます。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
体育施設の利用者数	71,523 人	110,587 人	120,787 人	124,000 人	向上	向上	高
スポーツ振興課							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
<状況> 令和5年度の体育施設の利用者数は120,787人で、基準値と比較して、49,264人増加しました。 <原因> 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、体育施設の開館状況や利用制限の廃止などによりコロナ禍以前の状態へと改善したことが要因です。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
公共施設維持管理費（社会体育施設分）	6,342 万円	—	8,742 万円	12,279 万円	横ばい （↓）	—	達成
担当課：スポーツ振興課							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
<状況> 令和5年度の公共施設施設維持管理費（社会体育施設分）は8,742万円で、基準値と比較して、2,400万円増加しましたが、めざそう値を達成しました。 <原因> 光熱費や消耗品の値上がり、人件費の高騰による施設管理委託費の値上がりなどにより、施設の維持管理費が上昇した要因であると考えます。							

事業名称	蓮沼スポーツプラザ施設改修事業					[1983]	
施策名	03	スポーツの振興	担当部署	教育部 運動公園管理事務所			
基本事業名	03	体育施設の利用促進	計画年度	令和01年度 ～			
方向性	01	公共スポーツ施設の有効活用の促進					
事業概要	【令和5年度大幅増減事業】 蓮沼スポーツプラザの施設老朽化に伴い、改修工事を行ないます。（昇降機撤去・新設工事、空調調和設備改修工事、屋根改修工事） 令和5年度は空調調和設備の改修工事を行なうことから、事業費は増額となります。						
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	打合せ回数		回		3	3	3
活動指標②							
成果指標①	改修進捗率		%		30	70	100
成果指標②							
事業費（決算及び当初予算）			千円		4,477	135,850	89,250
活動進捗	順調	＜状況＞令和4年度から繰越をして実施したエレベーター工事については完了しました。空調調和設備工事・工事監理業務委託についても完了し、順調です。 ＜原因＞スケジュールを組み、監理業者・施工業者と調整を行いながら進めたことによるものです。					
成果状況	維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		＜課題＞蓮沼スポーツプラザについては、施設が老朽化しており、施設の維持にあたり定期的に改修費用が必要になります。 ＜今後の取組み＞令和6年度に屋根について大規模な改修工事を見込んでいます。今後、維持管理するうえで計画に基づいて予算を平準化した改修や、施設利用者の状況を踏まえ、他の施設との集約化や廃止などについても検討していく必要があります。					

事業名称	成東総合運動公園施設改修事業					[2216]
施策名	03	スポーツの振興	担当部署	教育部 運動公園管理事務所		
基本事業名	03	体育施設の利用促進	計画年度	令和05年度 ～		
方向性	03	公共スポーツ施設の整備				
事業概要	【令和5年度新規事業】 成東総合運動公園において老朽化したテニスコートの人工芝について助成金を活用し、改修工事を行なうものとなります。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	委託業務発注件数	件			2	2
活動指標②	工事発注件数	件			1	0
成果指標①	改修進捗率	%			100	100
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円			70,482	8,956
活動進捗	順調	＜状況＞成東総合運動公園テニスコート人工芝改修工事について、工事が完了し順調です。 ＜原因＞スケジュールを組み、監理業者と日程を調整しながら実施した結果、年度内に工事が完了しました。				
成果状況	維持・横ばい					
課題及び今後の取組み		＜課題＞施設の老朽化に伴い、利用者の安全確保及び施設の健全化を図るため、計画的に改修工事を行なう必要があります。 ＜今後の取組み＞施設改修・整備を計画的に行い、財源の確保に努めていきます。				

施策04 子育ての支援
施策・基本事業の成果指標

施策の成果指標

成果指標名	単位	基準値	R04実績	R05実績	めざそう値 R08	達成状況
子育てが幸せ、楽しいと思う就学前児の保護者の割合	%	93.4	—	89.2	95	低
この地域で子育てをしたいと感じる就学前児の保護者の割合	%	92.2	—	89	94.4	低

基本事業の成果指標

基本事業	成果指標名	単位	基準値	R04実績	R05実績	めざそう値 R08	達成状況
01	幼稚園・保育所・こども園の利用定員充足率	%	82.9	—	77.7	80	低
01	修学前保育・教員に関する保護者の満足度	%	96.9	—	96.3	98	低
01	一時保育・特別保育ニーズに対応できなかった件数	件	—	—	14	0	低
02	児童虐待通告件数	件	73	89	77	—	—
02	児童に関する措置件数	件	0	0	1	—	—
03	学童クラブの待機児童数	人	0	—	6	0	低

達成状況の概要

施策	件数	基本事業	件数
達成	0	達成	0
高	0	高	0
中	0	中	0
低	2	低	4
—	0	—	0

施策番号 04：子育ての支援

施策の環境変化と課題（令和05年度）
・共働きやひとり親家庭の増加等、家庭の状況が変化し、3歳未満児の保育や、長時間保育の需要が高まっています。 ・子育て支援センターで、育児等の相談を受け、子育ての不安を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援します。 ・妊娠期から子育て期まで、切れ目のない支援の充実に取り組んでいきます。 ・子育てにおける経済的負担の軽減はニーズが高く、市では、引き続き高校生までの医療費を助成し、保護者の経済的な負担軽減を図ります。 ・学童クラブにおける利用ニーズの多様化に対応できる支援員の人材育成が課題となります。また、学童クラブと放課後子ども教室との総合的な放課後対策が課題となります。 ・結婚を希望する人を応援し、子ども・子育てにやさしい地域社会づくりに取り組み、若い世代が将来にわたる展望を描ける環境づくりを推進していきます。

施策の対象	施策の意図
・児童（0～18歳未満） ・子育て家庭	子育て環境が整っており、安心して産む・育てることができます。

施策の成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
子育てが幸せ、楽しいと思う 就学前児の保護者の割合	93.4 %	92.4 %	89.2 %	95.0 %	横ばい (↓)	低下	低
担当課：子育て支援課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
＜状況＞ 令和5年度の子育てが幸せ、楽しいと思う就学前児の保護者の割合は89.2%で、基準値と比較して4.2ポイント減少しました。 ＜原因＞ 子育てしやすい環境整備等の子育て支援の充実を望んでいることが原因と考えられます。							

施策の成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
この地域で子育てをしたいと 感じる就学前児の保護者の割合	92.2 %	91 %	89.0 %	94.4 %	横ばい (↓)	低下	低
担当課：子育て支援課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
＜状況＞ 令和5年度のこの地域で子育てをしたいと感じる就学前児の保護者の割合は89.0%で、基準値と比較して3.2ポイント減少しました。 ＜原因＞ 子育て世代への経済的支援や子育てしやすい環境整備等の子育て支援の充実を望んでいることが原因と考えられます。							

施策番号 04：子育ての支援

基本事業番号 01：幼保機能の充実

基本事業の対象	基本事業の意図
・ 保育、就学前教育を必要とする世帯	・ 幼児教育を受ける機会の拡充と保育サービスにより、子どもを預け、働くことができます。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
幼稚園・保育所・こども園の 利用定員充足率	82.9 %	—	77.7 %	80.0 %	横ばい (↓)	—	低
担当課：子育て支援課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の幼稚園・保育所・こども園の利用定員充足率は77.7%で、基準値と比較して5.2ポイント減少しました。 <原因> 地域の少子化に伴い、入園を希望する幼児が減少していることが原因と考えられます。							

施策の成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
就学前保育・教育に関する保 護者の満足度	96.9 %	—	96.3 %	98.0 %	横ばい (↓)	—	低
担当課：子育て支援課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度の就学前保育・教育に関する保護者の満足度は96.3%で、基準値と比較して0.6ポイント減少しました。 <原因> 園行事等を縮小したことや、保護者からの十分な要望、意見等を反映できなかったことが原因と考えられます。							

施策の成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
一時保育・特別保育ニーズに 対応できなかった件数	— 件	—	14 件	0 件	低下	—	低
担当課：子育て支援課							
計画どおりに成果が上がっているか (昨年度の現状値の分析)							
<状況> 令和5年度のこども園における一時保育・特別保育ニーズに対応できなかった件数は14件でした。 <原因> 一時保育利用者の多くが3歳未満児であり、通常保育のほかに各園の行事や保育士不足により、対応できなかったことが原因と考えられます。							

事業名称		こども園施設整備事業					[1878]		
施策名		04	子育ての支援	担当部署	保健福祉部 子育て支援課				
基本事業名		01	幼保機能の充実	計画年度	平成28年度 ～				
方向性		05	教育・保育環境の整備						
事業概要		【令和5年度大幅増減事業】 こども園の建物（設備や遊具）の故障・損傷、経年による不良箇所の修理や改修等、施設整備を実施する事業です。 令和5年度は、なんごうこども園及びおおひらこども園のトイレ等改修工事を行います。							
		指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称								
活動指標①	修繕及び工事件数			件	15	13	113	25	
活動指標②	修繕及び工事費			千円	19,708	9,890	70,514	88,207	
成果指標①	園児一人あたりの経費			円	31,382	16,734	122,634	160,376	
成果指標②									
事業費（決算及び当初予算）				千円	27,531	17,552	75,867	105,498	
活動進捗	順調	＜状況＞令和4年度に比べ、園児一人あたりの経費が105,900円増額しました。 ＜原因＞なんごうこども園やおおひらこども園でのトイレ等改修工事やその他の修繕工事により、大幅に工事費が 上昇しました。施設の築年数が経っているため、今後も工事費が上昇することが見込まれます。							
成果状況	維持・横ばい								
課題及び今後の取組み		＜課題＞施設の老朽化による修繕箇所が増加しています。 ＜今後の取組み＞園児の安全のため、計画的な施設の予防修繕工事をおこなうとともに、新たに発生した修繕を 必要とする箇所については、速やかに対応します。							

事業名称	幼稚園施設整備事業					[1381]
施策名	04	子育ての支援	担当部署	保健福祉部 子育て支援課		
基本事業名	01	幼保機能の充実	計画年度	平成23年度 ～		
方向性	06	安全で安心な園づくり				
事業概要	【令和5年度大幅増減事業】幼稚園の建物（設備や遊具）の故障・損傷、経年による不良箇所の修理や改修等、施設整備を実施する事業です。 令和5年度は、日向幼稚園のトイレ等改修工事を行います。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	修繕及び工事件数	件	1	1	14	1
活動指標②	修繕及び工事費	千円	1,284	404	32,174	10,426
成果指標①	園児一人当たりの経費	円	12,236	4,749	480,216	104,260
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円	2,168	1,426	34,243	15,834
活動進捗	順調	＜状況＞令和4年度に比べ、園児一人当たりの経費が475,467円増加しました。 ＜原因＞令和5年度実施工事は大規模修繕工事であったため、経費が大幅に増額となりました。				
成果状況	維持・横ばい					
課題及び今後の取組み		＜課題＞施設の老朽化による修繕箇所が増加しています。 ＜今後の取組み＞園児の安全のため、計画的な施設の予防修繕工事をおこなうとともに、新たに発生した修繕を必要とする箇所については、速やかに対応します。				

施策番号 04：子育ての支援
 基本事業番号 02：こどもの人権の尊重

基本事業の対象	基本事業の意図
・児童（0～18歳未満） ・子育て家庭 ・地域住民	・しつけと称した体罰や養育放棄が虐待であると理解することにより、子どもの人権が守られます。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
児童虐待通告件数	73 件	89 件	77 件	－ 件	横ばい （↑）	－	－
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
＜状況＞ 令和５年度の児童虐待通告件数は77件で、基準値と比較して４件増加しました。 ＜原因＞ 児童虐待防止の周知活動や地域関係機関と連携を図り、児童虐待の早期発見・早期対応できる環境づくりに取り組んだことが、児童虐待を潜在化させず通告につながっている要因であると思われます。							

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
児童に関する措置件数	0 件	0 件	1 件	－ 件	横ばい （↑）	－	－
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
＜状況＞ 令和５年度の児童に関する措置件数は１件で、基準値と比較して１件増加しました。 ＜原因＞ 生活保護受給者の出産により助産施設への措置が１件発生したことが要因です。							

事業名称	子ども人権(CAP)事業					[974]
施策名	04	子育ての支援	担当部署	教育部 子ども教育課		
基本事業名	02	こどもの人権の尊重	計画年度	平成18年度 ～		
方向性	01	子どもの人権教育の推進				
事業概要	園児や児童生徒、保護者を対象に、子どもの人権について、また、互いの人権について正しく理解してもらうため、市内の園及び小中学校で講座を開催する事業です。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	開催回数	回	9	17	22	13
活動指標②						
成果指標①	延べ参加者数	人	113	257	309	210
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円	300	591	751	500
活動進捗	順調	＜状況＞幼稚園・こども園で、子どもワークショップ14回（昨年比3回増）、大人ワークショップを8回（昨年比2回増）実施し、参加者合計が309名（昨年比52名増）でした。小学校の実施は1校ありました。 ＜原因＞コロナ禍が明け規制緩和となり、本事業を実施しやすい環境となったことが、開催回数や参加者数の増加につながったと考えます。				
成果状況	向上					
課題及び今後の取り組み		＜課題＞子どもの人権保護推進のため、引き続き、CAP人権プログラムを実施していく必要があります。 ＜今後の取り組み＞多くの子どもたちや保護者に関心をもってもらえるように、周知する方法を工夫し、より充実した講座になるよう取り組んでいきます。				

事業名称	家庭児童相談事業					[342]	
施策名	04	子育ての支援	担当部署	教育部 子ども教育課			
基本事業名	02	こどもの人権の尊重	計画年度	～			
方向性	02	児童虐待防止対策の推進					
事業概要	児童虐待の防止や家庭における児童育成等の相談・指導、母子・父子家庭等の自立支援やDV相談等を行う事業です。平成30年度から子ども家庭総合支援拠点を設置、運営し、子どもとその家庭及び妊産婦等の福祉に関する支援業務を行います。						
指標・事業費の推移			単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称						
活動指標①	設置相談員数		人	5	5	5	5
活動指標②	山武市要保護児童対策支援会議開催回数		回	66	46	62	60
成果指標①	相談・訪問件数		件	2,147	2,064	3,093	3,000
成果指標②	相談や訪問により市として虐待の早期発見や未然防止として対応しているケース件数		件	73	89	77	80
事業費（決算及び当初予算）			千円	3,350	4,161	4,582	4,571
活動進捗	順調	＜状況＞児童虐待防止の周知活動及び関係機関との密な連携により関係機関からの相談件数が増えましたが、通告による要対協ケース件数は減少しました。また、重症化ケースを出すことなく対応できており順調です。 ＜原因＞児童福祉法改正に伴い、子育て世代包括支援センターとの一体的支援による早期対応を開始したことで、関係機関からの相談が増えたことが相談件数増の原因と思われます。また、早期の段階から相談体制をとることで、未然に抑止できたことがケース件数減少の要因となっています。					
成果状況	維持・横ばい						
課題及び今後の取組み		＜課題＞体罰が児童虐待にあたると法定化され、リーフレットの配布等により周知を図ってきましたが、体罰を無くす意識は未だ保護者をはじめ地域社会に十分に浸透していないのが現状です。 ＜今後の取組み＞「子どもへの体罰禁止のリーフレット」の配布等の継続や広報等による周知により地域に理解を求めるとともに、保護者の虐待禁止の意識向上のため、さくら連絡網を活用した周知活動など更なる啓発に努めます。					

施策番号 04：子育ての支援
基本事業番号 03：学童保育の充実

基本事業の対象	基本事業の意図
・小学生	・放課後の児童の安全を確保し、適切な遊びや、生活の場を与えることにより、保護者が安心して働けます。

基本事業成果指標	基準値	令和04年度	令和05年度	めざそう 値	対 基準値	対 前年度	目標 達成度
学童クラブの待機児童数	0 人	—	6 人	0 人	低下	—	低
担当課：子ども教育課							
計画どおりに成果が上がっているか （昨年度の現状値の分析）							
<状況> 4月当初の待機児童数は6人で、基準値と比較して6人増加しました。 <原因> 大平学童クラブで、施設基準等から定員数を超えて受け入れを行うことが難しいため、待機児童が発生したことが原因です。							

事業名称	学童保育運営事業					[344]
施策名	04	子育ての支援	担当部署	教育部 子ども教育課		
基本事業名	03	学童保育の充実	計画年度	～		
方向性	01	学童クラブの確保				
事業概要	【令和5年度大幅増減事業】 小学校就学児童で、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに、授業終了後に適切な遊び及び生活の場を提供し、健全な育成を図る事業です。令和5年度から市直営の学童クラブの指定管理者制度導入を予定しています。					
指標・事業費の推移		単位	R03年度 実績	R04年度 実績	R05年度 実績	R06年度 当初
区 分	指 標 名 称					
活動指標①	学童クラブ利用決定児童数	人	403	458	438	498
活動指標②	利用申込書受付数	件	403	458	444	498
成果指標①	待機児童数	人	0	0	6	0
成果指標②						
事業費（決算及び当初予算）		千円	34,808	35,403	92,755	93,607
活動進捗	順調	＜状況＞利用決定児童数と利用申込受付数は昨年度と比べて減少していますが、待機児童数は昨年度実績の0件から6名増加し、6名でした。 ＜原因＞松尾地域の学童クラブでは、定員数と利用決定児童数がほぼ同数となる状況が続いています。大平学童クラブは元々の定員数が少なく、施設基準等から定員数を超えて受け入れを行うことが難しいため、待機児童が発生しました。他地域の学童クラブについては待機児童は発生しておらず、松尾地域についても児童の進級・進学によって4月以降の状況は変化する見込みですが、待機児童数増加のため、事業成果状況は低下としました。				
成果状況	低下					
課題及び今後の取組み		＜課題＞一部の学童クラブにおいて、待機児童が発生しています。 ＜今後の取組み＞令和5年度より導入した指定管理制度では、地域ごとに同じ業者が管理を実施しており、一時的な利用児童の増加に対しては学童クラブ間で職員数を調整することで対応しています。今後も状況を注視し、複数年に渡り慢性的に待機児童が発生する、低学年児童の待機が増加し解消されない等の問題が発生した学童クラブについては、早急に施設及び人員の調整ができるよう検討します。				

第4章

学識経験者の意見

教育に関し学識経験を有する方の知見を活用し、客観的な評価を行うことを目的として、山武市教育振興基本計画の施策及び基本事業について2名の学識経験者から御意見をいただきました。

- ・ 学校生活に満足している児童・生徒の割合が児童・生徒共に 90%を越えていて評価できる。この数値は学校行事が再開したことの他に、学校生活全般の「いじめにあわない」、「勉強がわかる」、「部活動で十分な練習ができて成果が出た」、「友達と仲良くできている」等が出来ているからだと思う。
- ・ 学力向上支援事業について、「学力向上推進校を指定し」とあるが、指定校以外の学校においても学力向上が見られるように指導をしていただきたい。
- ・ 英語検定3級以上の取得者の割合増加には、夏季及び冬季に開催する英語検定対策講座講座の出席者が増加することが重要だと思う。出席者が増加するように講座の周知を行っていただきたい。
- ・ 英語検定3級以上の取得者の割合を向上させるには、英語の授業や英語そのものが好きであることが大切だと考える。小学校の授業から英語を好きと思えるような取り組みを行っていただきたい。
- ・ ALT の配置は充実していると思う。このことが英語教育推進事業の成果につながるよう努めていただきたい。
- ・ 生活習慣の改善に努めた生徒の割合が、基準値や令和4年度の実績と比較してもかなり低いのは残念である。早急に解決するよう努めていただきたい。
- ・ 小学校の健診受診率が高いことは評価できる。欠席児童のフォローをきちんとしている成果が出ている。
- ・ 教職員が授業で ICT 機器端末をより効果的に活用するために、端末の操作方法に加え、授業での使用方法について、引き続き ICT 支援員等による研修を実施していただきたい。
- ・ 授業に ICT 機器を活用した教職員の割合が増加していることは評価できる。活用した教職員の割合が 100%になるように努めていただきたい。

- ・小・中学校共に ICT 機器が授業で活用されていることは評価できる。児童生徒に配布されているタブレット端末でトラブルが起きないように保守点検と併せて適切な使用方法の指導をしていたきたい。
- ・ICT サポート事業について、ICT 支援員が授業と一緒に参加して教職員のサポートをしてくれている。授業中の ICT 機器のトラブルにも対応ができていて、より良い授業が行えていることは評価できる。
- ・奨学金の貸付事業について、良い事業だと思うので広報等で周知を積極的に行っていただきたい。
- ・生涯学習の充実を図るために、社会教育施設の老朽化等様々な課題もある中、生涯学習を推進するのは大変なことだが、少しずつでも成果が出るように努めてほしい。
- ・公民館を利用している自主クラブの登録数が基準値や令和4年度実績と比較しても増加していることは評価できる。今後、さらに充実した活動を続けていただきたい。
- ・歴史民俗資料館の事業について、事業に対しての考察がしっかりとできていて評価できる。このことが事業の成功につながっているのだと思う。
- ・図書館では SNS を活用し、イベントの周知をしていて評価できる。引き続き実施していただきたい。
- ・スポーツの振興について、社会体育施設の老朽化やスポーツ活動にあたっての制限があると思うが、このような状況の中で、市民や施設利用者が安全に楽しく活動ができるように努めていただきたい。
- ・スポーツ活動の充実について、スポーツ大会・教室の機会の充足度が基準値や令和4年度実績と比較しても増加していることは評価できる。新たに企画したイベントが市民に受け入れられた成果だと思う。
- ・子育ての支援について、少子化が問題となる現代、子育て世代が定住したいと思えるような子育て支援の充実を図っていただきたい。
- ・幼保機能の充実について、就学前保育・教育に関する保護者の満足度が低くなっているが、どのような意見が出ているかを把握し、改善に努めていただきたい。